

【2009. 1. 7 吉池→慶谷】

慶谷壽信 先生

先生には如何お過ごしでしょうか。『語学漫歩選』発刊の折には、論文の転載をご快諾いただきありがとうございました。おかげ様をもちまして、この単刊は各方面に好意的に受け入れられたようです。ある人（中央アジア史の専門家）の評に「古き良き時代の人文系大学院の熱気を伝える」とありました。

さて過日、次の単刊の発行につき、古代文字資料館一同で話し合いました。その結果、今後の有坂秀世の人と学問の研究のために、関係論文をまとめておこうということになりました。

そこで、慶谷先生の関係論文をまとめて発行できないものだろうかという話になりました。勝手な話ですが、もしも発行のお許しを戴けましたら、一同これ以上のよろこびはございません。概略を下に記します。先生には、お心を煩わせることとなるのではないかと心配で、心苦しいのですが、ご一考くだされば幸いです。

吉池孝一揮

平成 21 年 1 月 7 日

記

1. 仮題：『有坂秀世研究 一人と学問—』

2. 頁数：約 370 頁。

3. 内容

■論文

1. 前史 —石塚龍麿から有坂秀世まで— (中国語学 第 228 号) 18 頁
2. 大正大学の有坂秀世講師 (国語学 第 133 集) 11 頁
3. 有坂秀世研究のために —療養生活その他— (人文学報 第 166 号) 44 頁
4. 有坂秀世博士の学士院賞受賞をめぐって (國學院雑誌 第 85 卷 6 号) 18 頁
5. 有坂秀世博士の出生の地とその父鋁藏博士のこと (言語 第 13 卷第 11 号) 4 頁
6. 有坂博士追悼講演會について (中國文學研究 第十期) 14 頁
7. 有坂秀世略伝試稿 —出生から高等学校卒業まで— (人文学報 第 180 号) 47 頁
8. 有坂秀世「山東系の一方音について」をめぐって (國學院雑誌 第 88 卷 7 号) 19 頁
9. 有坂秀世「音韻論」(『音聲の研究』第 VI 輯) の成立に関する卑見
(人文学報 第 198 号) 46 頁
10. 有坂秀世博士の卒業論文について (野村正良先生受賞記念言語学論集) 15 頁
11. 有坂秀世略伝試稿 —大学入学から卒業まで— (人文学報 第 213 号) 25 頁
12. 有坂理論の展開 —「音韻變化について」のばあい(上)—
(人文学報 第 234 号) 35 頁
13. 有坂理論の展開 —「音韻變化について」のばあい(下)—
(人文学報 第 253 号) 43 頁
14. 有坂秀世『語勢沿革研究』にみえる「vowel-gradationノ法則」
(日本語研究諸領域の視点 下巻) 17 頁

■その他

15. 有坂秀世著『国語音韻史の研究 (増補新版)』(中国語 第 214 号) 1 頁
16. 有坂秀世博士の論文について (言語 第 11 卷第 3 号) 2 頁
17. 有坂秀世「劣敗者の人生觀」について (語学漫歩 第八号) 4 頁
18. 有坂秀世博士のこと (トンシュエ 第 5 号) 3 頁

合計 366 頁

4. 体裁：既刊の論文をそのまま版下とする。版下使用が不許可の論文については、新たに打ち直す。既単刊と同様の装丁。
6. 発行部数：300部。非売品とする。
7. 編集担当：竹越 孝
8. 発行：古代文字資料館
9. 発行予定日：2009年10月末日

【2009.1.13 慶谷→吉池】

1.

拝復 寒中おのみま申しあげます。
清祥にておすしでしうか。
さて、貴簡一月九日に拝受しました。
お手紙によれば、古代文字資料館の皆様と話しあわれて
の決定とのこと。古いものをこのようにふそろいな形でま
め、ことにやて、世の批判を受けまかもしるべうこと
など、いろいろ考量の上のことだろうと思ひ、このお申しと
とありかたく受諾いたします。
佐藤君の意見を聞きました。なと、賛成ではあつが、
大学院生等の若い人たちの手に入るように考慮すべきだ
らうとした。この点は、またの機会にお考え下さい。
一月十九日は、有坂鋳藏先生の命日です。長崎に
ときには一度もお参りできなかったのですが、一週間くりあげて、
昨十二日にお参りしました。私の誕生日でもあります。
墓前に「語学漫歩」と貴簡をお供えして報告
しました。
ところで、昨年の語学会大会のときに、水谷誠氏から
吉屋君が有坂秀世生誕百年の行事で、有坂特集号の
「開篇」を写すつもりだと聞きました。吉屋君の年譜状
にもすしそのことについてありましたが、正式の通知もあ
いので、貴簡きたたいた後で聞いてみました。私の原稿を
載せるだけで、この三月末までに原稿をばし、どうして
したから、とりあえずはそのことかつかつたことばして、古代文字
資料館のことに専念すまことばしました。

「版下不許可」云々の事は、具体的にどうかから対処したと思いきや、題目について希望があります。

恩師 水谷貞成先生は、その師 倉石武四郎先生から「研究」というのは容易にできることではない、つまり勉強ですと語っておられたことを聞きました。それで、私は学生時代から自分のしていることを「研究」、書いたものを「論文」といひたいと心にかけました。もちろん、科研費の申請には「中国近世音の研究」と銘打ちました。勉強には相手にもされませんので、しかたありません。有坂秀世研究のために「療養生活その他」は、私のしていることは研究ではなく、将来研究する人のために提供するという意味でつけています。サブタイトルの「人と学問」は、賛成です。平山輝男先生の米寿記念論集に載っている「Vowel-gradation / 法則」は、有坂秀世博士の「人と学問」と題して、国民学術協会で話したものの一部分です。ついでに、同協会理事長であった藤田良雄先生（一高の寮で有坂氏と同室）は、百歳の齢を重ねて、多摩野に「存命」です。

題目は、たとえは、「有坂秀世研究のためにーその人と学問」のようにはなりません。ハリーマンは、いろいろあると思いきや、内容の上では、「著述拾遺」所収の「有坂秀世博士略年譜稿」を入手することはできませんか。「研究のために」は手もとにあると便利です。

それから、「中国語」(大修館)の「私の一冊」を入れるなら、「中国語」(内山書店)の「読書案内『語学』」は、どうでしょうか。

同じようなことを書いてお思いますが、現物をさかしてると、この手紙が何日も遅れるので、確認したいままに追加しておきます。

刊行経費の点は、「語学漫歩」のときと同じでしょうか。「著述拾遺」を多しなとき、買取りの書籍代医料を三着堂に払って、指導生諸氏や言語学、国語学、中国語学のみなさんに百冊以上を寄贈してもらう予定です。今回、このようなことを考える必要はあるでしょうか。もちろん、自分の負担を考えています。編集者の竹越氏には、またおめいわけを申しわけありませんか。お願いできれば、幸甚の上もありません。

すし(先)のことにあります。いま書ておられた方がよく思われまので、序文やあとがきのことを記します。「序文」は、古代文字資料館の代表者にお願ひがします。竹越氏が「あとがき」を書かれることは、どうでしょうか。必要ならば、私も「あとがき」を書かしていただけたらと思ひます。「研究」の文字を冠せず、現にあるままの形で資料集を提供することをいわけがまし(く)んだと書きたいと思ひます。ただし、状況によっては、不必要となるかもしれませぬ。

いまの段階で申あげ(き)とは、大体記したと思ひます。古代文字資料館の皆様は、すし(く)お任せ下さい。健康を祈ります。

敬具

吉池孝一様

一月十日

慶谷壽信

【2009. 1. 19 慶谷→吉池】

1.

拝復 明日から大寒、いよいよ厳しく時期に入ります。
 いつも厳しく寒さにあうと、もうそれほど先が長くはない
 年で一生が終るかと思えます。

さて、貴簡十六日に拝受しました。すぐに返事しなけ
 ればいけないと思いましたが、十七日にはいつもの傍事、十八日には
 田地の理事会があり、書き急ぐでした。

まず最初の二部、コピーと二部（同じものですが一部は
 朱で勝ちのりを書き入れてます。）同封しました。私か

長崎に赴任した後に書いたものです。執筆者の中には、
 これと大学設置申請書中で「論文」に記入するか、「その他」
 にするが、迷った人もいたようです。私のはあ、学長と私は先立

て一九九九年の六月に設置審に書類を申しましたので、
 まだ書いてもいびくときで、どうするか迷うことはありませんでした。

皆様と相談下されば、それでいいのですが、学生を対象で
 あるからと、別に必要でもないような署名にもカナ
 をつけていますし、同じ理由で橋本進吉氏については評とく

肝腎の有坂氏については簡略に記していますから、「その他」
 に入れるべきか悩んでます。「前史」石塚龍彦から
 有坂秀世まで」と比べてみて下さい。

ついで印刷順のことです。「前史」岩塚藤正石塚龍彦から
 有坂秀世まで」から始めののが普通でしょうが、簡単
 なミスプリのほかに、91ページ右側中ほど、「9頁」のときは
 前後をみていただければわかりますが、「9頁 園点 廣世」
 とあるべきものです。「園点 廣世」を「ついで」がむかし

吉池孝一様

一月十九日

慶谷壽信

敬具

そうですが、どうでしょうか。まず中の印刷と考えて、このと
を申しあげておきます。
今回の巻一は、同封していただいた速達用返信封筒の中
には入り切れませんので、返信封筒は別の機令に使わせていた
だきます。
それでは、よりあえす右、一筆しました。
ご健勝を祈念しつろ。

【2009. 1. 30 竹越→慶谷】

拝啓

厳寒の候、先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。昨年は『語学漫歩選』の出版に関し格別のご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。お蔭様で、該書は様々な方面から好評をもって迎えられております。

さて、先生の有坂秀世博士関連論集出版に向けて、その後も吉池・中村・竹越の三名で議論を重ねております。本日は、これまでの話し合いの結果を受けて、編集実務の担当である私の方から出版の骨子をご報告申し上げるとともに、いくつかの点で先生のご意見を賜りたくお便りいたしました。

まず、書名は慶谷壽信著『有坂秀世研究のために—その人と学問—』、叢書名として「KOTONOHA 単刊 No. 4」を付し、古代文字資料館編・発行とさせていただきたく存じます。原則として既に出版された刊行物をそのまま版下とする体裁を取り、版型はB5版、部数は300部を予定しております。

現段階で私どもの考えた目次案を同封いたしましたのでご覧下さい。基本的には縦組ですが、「前史—石塚龍麿から有坂秀世まで—」から始まる横組の部分もございます。配列は、縦組・横組それぞれについて内容を大まかに分けたのち、発表時期の順に並べました。下の頁数を合計しますと、今のところ400頁となっております。また、序は中村雅之氏、編集後記は竹越が執筆することとしました。先生には「あとがき」に相当する部分（必ずしも「あとがき」というタイトルでなくともかまいません）をお願いしたいと思っております。目次の配列等につき、ご意見やご要望があればお寄せ下さい。

今後のスケジュールですが、まずそれぞれの刊行母体である学会・大学・出版社等に連絡して出版の趣旨を説明するとともに、既刊論文をそのまま版下とするものの可否を尋ねます。許可が得られなかったものについては、

私どもの方で手分けして入力作業を行うこととなります。この作業が終了した段階で、先生に見本となる形のものをお届けします（その際には中村氏の序文も付します）。先生に、誤植の訂正や補注などの朱を入れていただくとともに、「あとがき」もご執筆いただき、私どもがそれに基づいて原稿を整えた後、通しページをふって印刷製本に回す、という手順で行いたいと存じます。今のところ、3月中には先生に見本をお届けし、8月中にはすべての原稿を整え印刷製本に回したいと考えております。

刊行費用に関してですが、原則として既に出版された刊行物をそのまま版下として使用する計画であるため、本書は非売品とし、これまでの KOTONOHA 単刊と同様、吉池・竹越両名の研究費を使って業者に印刷製本を委託するのがよろしいかと考えております。よって、出版の費用はかからない予定ですので、資金面でのお気遣いはどうか無用に願います。出刊の折に、先生の方から寄贈先のお名前（団体名を含む）を挙げていただければ、私どもの方で責任を持って送付作業を行います。同時に、全国の主要大学図書館・研究室にも寄贈し、今後の研究の進展に役立てていただくつもりでおります。

現段階で私どもの方から先生のご意向を伺いたいことが二つほどございます。一つは刊行日で、有坂博士ご生誕の日である9月5日とするか、または他の日がよろしいか、先生のご希望をお知らせいただけますと幸いです。いま一つは版下として使用する既刊論文について誤植の訂正を行う際の方法で、①当該箇所正字を記した紙を貼って訂正する、②先生の手書き訂正をそのまま印刷する、③当該箇所に印をつけて欄外に注記する、④当該箇所に印をつけて巻末に注記する等、いくつかの方法が考えられますが、先生のお好みのスタイルをお教え下さい。

今後も折に触れてご連絡いたしますが、今回はひとまずここまでといたします。先生のご著書出版のお手伝いをすることは、私どもにとってこの上ない喜びであり、可能な限り先生のご希望に沿った形でこの計画を進めたいと思っておりますので、上の二点に限らず、今回のご報告に関して疑問に思われる点や了承しかねる点、またご意見やご要望等がございましたら、遠慮なくお申し付け下さい。その際には同封しました返信用封筒をお使いいただければ幸いです。

これから一段と寒さの厳しい季節に向かいますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年1月30日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 厳寒の候ワレド、ご清祥にてお過ごしのことと存じます。

さて、貴簡昨二上日に拝受いたしました。すぐにご返事すべきところ、あいにく園地の理事会が来て、今月机に向かっています。

いろいろなことにご返事しはせられはりませぬが、ひとまず大ざっぱに記します。厳密なことは、おおりにしてとことと。

まず、書名のことからですが、「有坂秀世研究」という表現を避けたという点で、「有坂秀世研究のために——その人」という学問上の仮に申しあげました。「有坂秀世博士の人名学問」(博士にされたのはいつか、という点を問わなければ)という書名もあてはかと思えます。これは「Vowel-gradation / 法則」のもとになった国民学術協会での報告の題です。

「有坂秀世研究のために——その人と学問」という題を皆さんは何とも思われませぬでしたか。私としては、すこしおかしなかな、皆さんがこれと題にして下さるかなと思えて、とりあえず自分のところの「研究と呼ぶのは避けてよう」ということで、申しあげたままです。私のことばという点で皆さんが遠慮されたのだと思えますが、今後、私のいうことばに承服しかねる場合は、遠慮なくおっしゃって下さる。私の方で頑張りをもあつかうしませぬか。

吉池氏はすこし遠慮されるかもしれませぬが、中村氏もすくなくこの題を承認されたのですか。自分からいって

2.

ておいて申しわけありませんが、適宜にお考えいただけませんか。

「で、そのまま版下として使うことの許可をとるという点、これは私の方でしなくてはなりませんので、よろしく。」

長崎外語短大の国際文化学科は、大学設置にあって消滅しました。しかし幸いにして、当時の学科長がまだ長崎外語大に在職して下さりから、諾否を聞いてみました。その書式を教えていただいたければ、私信の中に含める形で手紙を書きます。

ところで、この文章は、今回の目録では、「論文」に入っているようですが、「その他」としては長すぎるのですか。「前史」石塚龍磨から有坂秀世まで、「共通して」というところはありますが、「前史」の方は、問題を直そうに對して、これは「概略」であり、特に橋本進吉氏について評述したに對して、有坂氏にかけると分量が少なすぎると気がひけます。皆さんはこれを「論文」に入れてよいと判断されたのですか。

刊行日は、九月あたりにはできぬか、それか、まだ「著述拾遺」の「あとがき」、「水谷眞成先生の横顔」などは三月十者にならなくてはなりません。有坂氏の命日を、たまたまそれらしく使うのではダメで、その日には書きあげたものを必ずからに譯して、その日に書き終ります。ほかに、二月十二日は、有坂氏の学士院賞授子決定の学士院会總會の日であり、これもくつかありと思えます。一月十者は、私の誕生

日でありしうより、学士院賞授子内定の日(委員会
決定)も使えます。紀要の原稿は秋のけじめに提す
ことになり、持に日とまめのこともありませんが、九月三
十日付にしますので、このほどあつたようです。これは、令兄愛彦
氏の誕生日とまちかえて、そうしたのでしょうか。いま、はつきり
しません。

版下の誤植の訂正は、先日吉池氏あての手紙で例を
挙げてました。「前史—石塚龍磨から有坂秀せま—」
で示した「(園点、慶彦)」の例。この()内文中に入るのは
余白の関係で容易ではびかもしれません。が、文を挿入
して入ることはできませんか。「山路」を添った龍磨の和歌
の中で、「しほつばから、(園点、慶彦)」としてひらきも
あります。

誤植の訂正する方法は①当該箇所には正字を記した
紙を貼って訂正する。どうかが第一希望です。ただし、それは
できるならば、どうしよう。有坂秀世博士略年譜
稿では、ニヶ所ミスがあり、それは「旅行→旅行」、「退
寮→退寮」のところ、私の手もとにあるものは、それらしい
字を貼りつけて、それで訂正してあります。

3,
それから、お所の表紙でひとつ。半山「vowel-gradation」
法則」では、平山輝男博士米寿記念論集「明治書院」
に入っていたはずですが、「日本語研究諸領域の視点」

下巻」では、ほかのものとかけて、唐突の感があります。
「略年譜稿」も、有坂愛彦「慶彦書信編」著(拾遺)
の部であるとうことも。

改文タイトルと要者は、すて削り下す。それらにつて
「附記」は、残して下さい。

乱雑な文で申しわけありませんが、どうやら、今回私にお
めりして下さる、かけ足ながら、ほぼ書いたようです。
ま筆ながら、健康を祈念申あつます。

二月一日夜

敬具

慶彦書信

竹越孝様

4,

【2009. 2. 9 竹越→慶谷】

拝啓

余寒なお厳しき折、先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。先日は早速お便りをいただきまして、誠にありがとうございました。

お返事いただいた件に関しまして、吉池・中村両先輩と私の三名で話し合いました。未だ結論に至っていない問題もございますが、以下にその結果をご報告申し上げます。

まず書名の件、私どもは、先生ご自身が『有坂秀世研究のために—その人と学問—』というタイトルをお望みなのであろうと解釈していたのですが、必ずしもそうではなかったということで、大変失礼いたしました。

これについて再度話し合いましたところ、吉池さんは、先生の意図は承知の上だが、やはり「研究」という言葉が最もふさわしいということで、

①『有坂秀世研究—人と学問—』

というタイトルを主張され、中村さんは、「言語学者」がふさわしいということで、

②『言語学者有坂秀世—人と学問—』

を提案されました。私は、特に遠慮するわけではありませんが、先生がご提案された、

③『有坂秀世博士の—人と学問—』

が良いのではと感じております。

さて、①～③のいずれがよろしいでしょうか、というのも芸のない話ですが、この件に関しては結論が出ておりませんので、今後も話し合いを続けたいと思います。先生の方でご意見やご要望がございましたらお寄せ下さい。

次に、そのまま版下として使用することの許可については、先日私どもの方で各方面に問い合わせの手紙を發しました。その文と、送付先リストを同封しますのでご一読下さい。今のところ、三省堂、同学社、野田恵剛先生から使用を認めるという葉書をいただいております。今後、掲載にあたって特定の条件が出されたりした場合に先生のお手を煩わせることもあるかと思いますが、その際には改めてお願い申し上げますことといたします。

長崎外語短大の刊行物に掲載された「上代特殊仮名遣研究史の概略」の扱いについてですが、私どもとしましては、この文は確かに有坂博士を中心にすえたものではないが、本書において最も重要な論考と位置づけられる「前史—石塚龍麿から有坂秀世まで—」を理解する上で大変有用な道標であると認識しており、いわゆる「論文」として扱いたいと思っております。ただ、何をもって「論文」とし、何をもって「その他」とするかはなかなか難しい問題ですので、目次では「論文」「その他」といった名称を用いることをせず、1行空けることで大まかな内容の別を示したらよいのではないか、という意見が出ました。また、目次に出所を入れるのではなく、「初出一覧」を作った方がよい、という意見もありましたので、再度目次案（と初出一覧）をお目にかけることといたします。よろしくご検討下さい。

誤植の訂正方法につき、了解いたしました。先に申しあげました通り、原稿の大枠が固まりましたら、見本となる冊子をお送り申し上げますので、先生には誤植訂正や補注などを朱で書き加えてご返送いただきたいと思っております。もちろん、それはいっぺんにではなく、少しずつで結構です。春以降、我々がそれに基づいて修正を施し、先生に確認してもらい、というやりとりを何回か、あるいは何十回か繰り返して、無事完成までこぎつけたいと希望しております。9月5日にすべての作業を終了することを心に期したいと思います。

それでは、今回はとりあえずここまでといたします。ご意見やご要望がございましたら、同封しました返信用封筒をお使い下さい。

まだまだ寒い日が続きますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年2月7日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 春とは名ばかりの寒い日かぶつておりますが今年はおかげさまで少し元気があまりましたので、例年ほど身体にいたえることはありません。

「清祥」にておかしなことを拝察いたします。

ところで、前便(二月日付)では急ぎすぎて、あざつておりました。おそれましたか、改めて今年もまじくお願申あげます。私からつぎへとおたずねすれば、それだけお忙しくなると申しわけありません。今回はそれほど急ぐ必要もなく、ま、お手数おわすらすまにばるかもしれません。お許し下さい。

版下使用願が之に早く処理されてまは、想像もしていませんでした。三者堂が承諾してくれたとは、ありがたかったです。

一月三十日付音翰にありました「目次」の中に、三所ほど気になるところがありました。この先訂正する機会があるかどうかのんびりかまえていました。

一つは、「略年誘稿」に対しても「有坂秀世博士 言語学 著述拾遺」のことです。書名を決めるにつては、三者堂の担当者とのやり取りがあり、結局、「有坂秀世博士」ではなく、「有坂秀世」となりました。幸いにして、今回の初版一覽では正しくなっています。もう一つは、「有坂秀世 音韻論」(「音聲の研究」第IV輯)の点です。これは今回の目次および初版一覽でも、「第IV輯」に記されています。「音聲の研究」第IV輯は、有坂氏が大学卒業直後に書いた「國語」にあらはれる種の母音交替について

2.

竹越 孝 様

二月十一日

慶谷 壽信

敬具

以上、すべて*にかかわるものです。とりあえず、思いつくままに記しました。健康を祈ります。

「音聲の認識」についての二つの代表作が載ったものです。「音韻論」は第IV輯に載りました。

ここで、またその時機では、あつてもいいか、略年誘稿」で変更したと思っている点を記します。行っておりませんよに、なまかもしれぬからです。

P.367 下段 ~~右肩に*を附した条項は、私自身の調査による確認する。ここから、上代音韻攷の「有坂秀世博士略年誘稿」から借用したものである。~~ **削除。**

P.371 下段 ~~*卒業論文「奈良時代に於ける國語の音聲組織」についてを提出。~~ **削除。**

P.377 下段 ~~18年5月、*の病気が方におかろう。~~ **削除。**

P.378 上段 ~~19年7月、*の病気が方におかろう。~~ **削除。**

P.378 上段 ~~25年1月、*危篤の状態が一月余ぶく。~~ **削除。**

1.

拝復 寒暖織りまぜてとりのは三月以降のことだと思っていまいたが、今年は二月からそうなるとふしぎな感じだ。温暖化現象は心配すべきことでありまけれど、老人にとてはありがたいことです。

さて、貴簡、昨十者に拝受しました。

個人情報等のため削除 古代文字資料館 本日、その件で

佐藤君より電話をもらいました。落合、佐藤両氏の相談では、私が正式に申入れるのがよいと、うしろにきて、そのおはすにお手もとにとどいていよと思ひます。もちろん、私自身が動くべきことはすでに覚悟しており、長崎外語短大の方へは連絡をとります。ようかと申しあげたときにはすでに処理済みで、なれば、今後、必要とあらば動きましますから、ご指示下さい。ただ、私が願ふときは、全文自筆にきて、いまのせいで、書類として認められぬ、かもしんませへので、規格製作していただくは署名捺印するだけとて、たければ、幸いです。

なお、ミニで二、三のミニについて記します。

一、人文学報の印刷は、記事などよりあつたことのため、印刷所がコンピューター字植まします。とうとう、文字を貼りつけて、その結果、校正しても貼りつけた、まの影がとれぬ、ともありました。「有坂香世研究のために」療養生活その他「など、かそうです。」「略伝試稿(上)」もさうかもしんませへ。

二、「山東京の方言とめぐり」(國學院雑誌)は、校正はさきも三回したのだと思ひますが、予ぎがとれ、できあがてのみ、と本誌ではミス、プリアらけ。校正と本作に書き入れなかったのだと

2.

思ひます。それで抜刷を作り直してもうきました。多分、今回の下版は抜刷をもとにして、うしろと思ひますが、本誌にもとづいてるのであれば、この抜刷を送ります。吉池、中村両氏は、私の訂正を書きえた抜刷をお持ちと思ひます。ただ、「you are right」法則は、私の訂正を書きえた抜刷がまたみつかりまへん。吉池、中村両氏がお持ちなのは、両面百の抜刷だと思ひます。ミス、プリアらけ、たまたまにも思ひますが、宿題とさせて下さい。

三、「前史」では、「(園点、廢女)」を挿入して、うしろかあるかもしんませへ。そのときには、英文と和文を削ったように、中文と和文も削るかどうか。私の作文で、ネイティブにもみてもらういませへ、これと趣意が通るかどうか、わかりまへん。削る。余白ができませんが。

今回は、とりあえず、ミニまでにとどめます。うしろきて申しわけありませんが、また気がついたら、かあれば、おたすします。

健勝を祈念しつ。

敬具

二月十八日

慶谷書信

竹越孝様

【2009. 2. 20 竹越→慶谷】

拝啓

向春の候、先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

版下使用の件ですが、その後もいくつか返信をいただき、現在までのところ、

日本語学会（国語学）、国学院大学（国学院雑誌）、三省堂（有坂秀世^{言語学}著述拾遺）、早稲田大学中国文学会（中国文学研究）、明治書院（日本語研究諸領域の視点）、同学社（トンシュエ）、日本中国語学会（中国語学）、野村先生受章記念刊行会（同論集）、内山書店（中国語）

の9機関より使用許可をいただいております。

今回はそれに関連してお願いがございます。落合守和先生より『人文学報』版下使用の件でご連絡があり、『人文学報』の刊行機関である東京都立大人文学部（現首都大学東京都市教養学部人文社会系）に本件を申請するにあたり、慶谷先生ご自身が発行主体である古代文字資料館に与えた版下使用の同意書を添えてほしいとの依頼がございました。即ち、先生に、

古代文字資料館が私の論文集『有坂秀世研究のために—その人と学問—』（仮）を刊行するに際し、『人文学報』の既刊論文をそのまま版下として用いることに同意する。

という趣旨の一文を署名入りで書いていただき、我々がそれとともに先の依頼書「既刊論文の版下使用に関するお問い合わせ」を提出すれば、版下使用はよりスムーズに許可されるであろうとお話でした。

そこで、お手を煩わせて大変恐縮ではございますが、同封しました用紙に上記のような文（もちろん、このままの文でなくともかまいません）をご執筆いただき、返信用封筒にてご返送いただけないでしょうか。それにより我々が書類を整えて申請すれば、落合先生も力になって下さるものと思います。

もちろん、先生がこのような同意を与えることはできないとお考えでしたら、遠慮なくそのようにお申し出下さい。全体の計画を見直すことになるかと思えます。前にも申しましたが、私どもは可能な限り先生のご希望に沿った形で事を進めたいと考えております。また、他にもご意見やご要望がございましたら、何なりとお申し付け下さい。

取り急ぎ要件のみ記しました。まだまだ寒い日が続きますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年2月20日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

竹越孝様

前略
とりあず、二種「同意書」を送ります。
ふーもところあきんから、紛失しなら下書きありますから、
また書き寄ります。
香細は別便にて。

二月二十日

不承

慶谷嘉信

古代文字資料館 殿

同意書

このほど、言語学者 有坂秀世博士(昨春秋、生誕百年)に関する私の著述をまとめ、
『古代文字資料館』が『有坂秀世研究』人と字間―と字間―と主刊行するに当り、左記各点の執稿
論文を板下として使用する事に同意します。
記

- 一、有坂秀世研究のために「療養生活その他」―東京大学文学報 第166号
- 二、有坂秀世略伝試稿―本生から高等学校卒業まで―東京大学文学報 第180号
- 三、有坂秀世「音韻論」(「音聲の研究」第VI輯)の成立に関する見解 東京大学文学報 第178号
- 四、有坂秀世略伝試稿―大学入学生涯まで― 東京大学文学報 第248号
- 五、有坂理論の展開―音韻変化について―の(上)―東京大学文学報 第234号
- 六、有坂理論の展開―音韻変化について―の(下)―東京大学文学報 第235号

平成二十一年二月二十日
東京都立大学名誉教授 慶谷 嘉信



同意書

このほど言語学者有坂秀世博士(昨年秋、生誕百年)に関する私の著述(上巻)の、貴古代文字資料館が「有坂秀世研究—人と字間—」と刊行するに当り、左記各点の拙稿論文を版下として使用する事に同意します。

記

一、有坂秀世研究のために—瘡春生活その他—

東京都立大学人文学報第166号(元四三)一—四頁

二、有坂秀世略伝試稿—出生から高等学校卒業まで—

東京都立大学人文学報第180号(元六三)一—四七頁

三、有坂秀世「音韻論」(「音聲の研究」(音韻)の成立に関する意見

東京都立大学人文学報第178号(元六三)97—142頁

四、有坂秀世略伝試稿—大学入学から卒業まで—

東京都立大学人文学報第225号(元九三)一—三五頁

五、有坂理論の展開—「音韻變化」について(上)—

東京都立大学人文学報第234号(元九三)二—三五頁

六、有坂理論の展開—「音韻變化」について(下)—

東京都立大学人文学報第263号(元四三)二—三五頁

平成二十一年二月二十日

東京都立大学名誉教授

慶谷 書信

古代文字資料館 殿

【2009. 2. 23 慶谷→竹越】

1.

拝啓 雨水の候、このとら、晴天が姿をかくしてしまいました。清祥にておまじのほど有ります。

さて、二月二十日(土)、おかけに郵便受けでかきの方を拝受しました。それで、私自身か都立大にお伺い願った方がよと思き、野紙まさか、その文章作りがよかったです。

夕方、新聞受けに遠達が入ってきたのに気がきました。

佐藤君と相談しようと思き、たが、当日は大学院入試の慰労会があったので、連絡がとれませんでした。翌朝、念のため電話をして、いろいろ話すとかができました。佐藤君によくと

私が古代文字資料館あてに同意書をおすように手筈が

進んでいくとのこと。私としては、落合氏が在室するかどうかは

別として、小方さんとか、あるは国語国文の誰かに案内して

もらうて二十三日(月)に許可もくうにいた方が、次回いつ来学

するかわからぬ、落合氏を当てにするよりもいいと思き、たが、

学部長名もわからぬ、(人文社会系長とかいうポストが

あるのだそうですね)、しかたなく佐藤君に任うことにしました。

それで、送っていただいた同意書の用紙に文章を書きました

か、すこしくなくて、人文学報の刊年月頁教と書きくとかでき

まんでしたので、それに加えて野紙に同意書を書きました。

一つ気に入らぬのは、インキが野紙の裏にじんた、となあ

です、これを「容赦下さい」。

ところで、版下許可がまだなのは、大塚館と長崎外大ですか。

大塚館では「言語」と「中国語」(「私の冊子」に「国語音韻

史の研究補新版)ととりあて、その両方です、内山書店

竹越 孝 様

二月二十三日

慶谷 壽信

個人情報のため削除 古代文字資料館

です。旧短大のことを知らない字長や事務長のところで迷子になさるる可能性もあります。

なお、弟の一年祭(仏の一回忌)で伊勢に参りますので、二月二十七日(金)から三月一日(日)まで留守にします。その間にとくお手紙にはもどろから返事を書くとします。

急を要するときは電話にします。お宅の番号は(056)611-3015です。

今回も粗忽な手紙にまで申わけありません。それではお元気で暮らして下さい。

敬具

の『中国語』の「読書案内『語学』」は、内容を確かめていただけましたか。

長崎外大の方は、以前にも申しあげたように、旧短大の国際文化学科長 山崎慶子教授あてがよいと思えます。外国にでもいつとも困りますか。

【2009. 3. 2 竹越→慶谷】

拝啓

春寒の候、先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

『人文学報』の件では色々ご心配をおかけし、申し訳ございませんでした。落合先生のお話ですと、すでに学部の責任者と事務に話は通してあるので、あとは一定の手続きに従って進めるのみとのことでした。

また、本日大修館書店より電子メールで許可とのご回答をいただきました。

よって、版下使用に関してはすべての機関から許可をいただいたこととなります。これも先生のご人徳の賜物と一同喜んでおります。

これまでにいただいた 10 機関分の回答文 (コピー) を同封しましたのでご確認下さい。これらの機関には、こちらから謝意を伝えるお手紙を発送しました。

さて、これから実質的な書物作りの作業がスタートするというので、今週編集会議を開いて具体的なスケジュールを決める予定です。色々な点で願いますことであろうかと思いますが、どうかよろしく願いいたします。

本日はご報告のみにて失礼いたします。なお、葉書を 10 枚ほど同封しましたので、連絡用として気軽にお使いいただければ幸いに存じます。

まだまだ寒い日が続きますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年3月2日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

拝啓 また寒くやまーたか、お元氣にお過ごしですか。
おうかがい申あびます。

さて、書名のこと、最初の「提筆」では、
「有坂秀世研究—人と学問—」であつたのに、
「研究」の字は使いたくない、研究のために「何かいい
と申あびました。

しかし、先日、首都大学東京に提筆も同意書と
書きまーたときに、ミミは対外的な意味もあつて、
正面きつて「研究」でいい、私の意とするところは「あ
かき」に記すことにはしようと考え直しました。

いろいろお手教をかけたが、最初の「提筆」とあり、
「有坂秀世研究—人と学問—」でお願ひがります。
以前いたがっていた達産用の返信封筒を使うのは、
大げさすぎずかもしれませへが使わせていただきます。
右、とり急ぎ一筆。
「健勝を祈ります。

三月二日

敬具

慶谷書信

吉池孝一様

拝復 三月に入ったのに、また寒くやまーた。
「清祥」にておかしのを有ります。

さて、貴簡、二月二十日と留守中の二月二十日か
二十八日に拝受しました。

長崎外大の承諾書かといふことで、一安心しました。
ところで、先日の同意書に記しましたように、最初「提筆
のあつた書名「有坂秀世研究—人と学問—」を採用す。

「提筆」に「何かいい」と思ひます。いつまでも「仮題」としておくと
感心しませへし、佐藤君のいうように、早晚 ISBN の
とよけに本題が必要だといふと、早晩 ISBN の
と思ひます。私のこだわりは、「あかき」を書かせて
いただけるといふことですから、そご「あかき」といふ
たがし、もう半年ほどの間に、強度の認知症にならぬ、
限りにおいて。

この件、話の筋として、「研究」の字を「研究のため」と
したと申あびた吉池氏にも、正面きつてこのようにすべ
と別便でお知らせします。

今回は、このへんで矢張りやります。
「健勝を祈念しつろ。

三月二日

敬具

慶谷書信

竹越孝一様

拝復 啓 塾のころと異なります。清祥に送りました。さて、貴簡、昨日に拝受しました。版下使用の許可書のコピーをお送り下さり、ありがとうございました。都立大に残るのみですが、ページ数余りから、これが一番大事です。決定までにはどのくらいかかるのでしょうか。

またハカキ十枚、お送りいただきありがとうございます。編集会議で今後のことはつきりするまでは、なにかあれば、ハカキで連絡申しあげます。

それでは、お元気で過ごし下さい。

三月 四
敬具

拝啓

春分の季節、先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

先にお伝えしました通り、版下使用に関してはすべての機関から許可をいただきました。都立大（現首都大）から届いた葉書のコピーを同封します。また、中村雅之氏による序文も完成を見たとのことで送っていただきました。ちなみに、筆の速い中村氏には珍しく、都合4回ほど書き改めたそうです。それだけに、恩師への思いに溢れた名文で、私なども胸が熱くなりました。以上により、見本となる冊子を作れる段階となりましたので、ここにお送り申し上げます。

これはあくまでも先生にご確認いただき、朱を入れていただくために作ったものです。基本的にはすべての論文をページごとA4に拡大コピーし（最終的にはB5にするつもりですが）、目次の順番に配置してファイルに綴じたのみであり、現段階では通しページも振っておりませんし、印刷の精度にもこだわっておりません。この点どうかご了承下さい。

目次に鉛筆で丸印を打ったものについては、吉池氏所蔵の抜刷を用いてコピーを取りました。当該部分には、ところどころに先生の直筆で訂正が入っています。この通りに訂正すべし、ということでしたらその旨ご指示下さい。

また、これまでに先生からいただいたお手紙の中で言及のあった箇所、即ち、

- ①「前史—石塚龍麿から有坂秀世まで—」91 頁における「(9 頁。)」→「(9 頁。圈点, 慶谷。)」の修正 [1/19 吉池氏宛及び 2/1 書簡]。
- ②「「有坂秀世博士略年譜稿」について」367 頁下段における「右肩に*を附した…」段落の削除 [2/11 書簡]。
- ③「有坂秀世博士略年譜稿」370 頁上段における「退療」→「退寮」の修正 [2/1 書簡]。
- ④同上 371 頁上段における「*卒業論文…」部分の修正 [2/11 書簡]。
- ⑤同上 374 頁上段における「旅行」→「旅行」の修正 [2/1 書簡]。
- ⑥同上 377 頁下段における「18 年 5 月ごろ *…」項目の削除 [2/11 書簡]。
- ⑦同上 378 頁上段における「19 年 7 月ごろ *…」項目の削除 [同上]。
- ⑧同上 378 頁上段における「25 年 1 月 *…」項目の削除 [同上]。

については、切り貼りで訂正を加えました。これまた仮のものであり、最終バージョンではありません。ご覧になってお分かりの通り、①の訂正はいま一つ不恰好ですので、今後よりよい方法を求めて検討していきたいと思えます。

こちらから先生に願いたいことが二つほどございます。

その一は朱入れです。先生にはまずこの冊子をばらしていただき、誤植の訂正や補注などを朱で書き加えた上で、少しずつ、できれば論文 2～3 篇程度をめどにご返送いただければと思います。我々はその原稿に基づいて修正を施し、ダイレクト印刷が可能な精度になるまで調整していきたいと思えます。また、たとえば「上代特殊仮名遣研究史の概略」に見られるもののよう、補注として書き加えるべき部分がございましたら、当該箇所には印をつけ、巻末に一括して「補注」として付け加えますので、その旨ご指示下さい。

その二は「あとがき」(必ずしも「あとがき」というタイトルでなくてもかまわないわけですが)の執筆です。これは夏までにいただければ結構です。こちらでワープロ入力し、同じように校正をしていただくつもりでおります。

今後、郵送費がかさむことが予想されますので、本学の A4 版封筒 10 通と 80 円切手 50 枚を同封いたしました。小額切手のため、かえって面倒をおかけするかも知れませんが、ご自由にお使い下さい。

最後に申し添えますと、我々としましては 8 月中にすべての原稿を印刷製本に回せればよいと考えておりますので、時間はまだ充分でございます。先生が根をつめて作業をなさり、お身体にさわるようなことがあっては大変ですので、くれぐれも無理をなさらないようお願い申し上げます。

他にもご意見やご要望がございましたら、何なりとお申し付け下さい。まだまだ寒い日が続きますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009 年 3 月 10 日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

拝復 昨日、ゆう。バックを拝受、貴院と都美大の許可書コピーも
拝受しました。ありがとうございました。

「見本となる冊子」というものが、私にはよくわかっていませんでした。このような、
語植の訂正を待っただけのものができてしまうと予想にもしていませんでした。

私の文章を倉めて、八月末までに処理すればいいという話ですが、九月
にできあがるためには、もっと早くしあげなければならぬという話はよくわか
ります。

なお、このついでのように申しわけありませんが、月並ではない個性的な
中村雅之氏の序文に心からお礼を申しあげます。『読者漫歩選』の
序文のように、インターネットだけでなく、携帯電話の画面でもみられる
ことになりました。

なまきは一筆、受領のお知らせとお礼まで。
健康を祈ります。

三月十一日

敬具

1.

拝啓 彼岸の入りと明日にひかえてくるのに、まだうすら寒状態です。
いかがおすしですか。おうかかい申しあげます。

さて、先日、見本^三を——とお送りいただき、しばらく素読みまし、
まず校^三にトリかかりました。

今回は初校とうとうころでしょうか。あるいは再校、三校といふたものがあるの
でしょうか。私の手もとはミス^三の訂正、語の追加可^三、朱^三を入れてあ
抜刷^三がほとんど（「vowel-gradation」法則^三を除く）で、それ以上のミス^三
考えなければ、校^三は容易ではぶかと思ひます。

縦① 「大正大学の有坂秀世講師」（大正大学から文部省あてにおいた
書類には、仙教大学のミとして、秀世^三とあり、従^三て、都大方言学会の発表の
ときには、「秀世^三」と読むのだと説明しました。）の抜刷は、表に「服部四郎
先生指^三と書^三て、それが二重線^三で消^三してあります。服部氏あてのもの
でしたが、中に破^三れてるページ^三があつて、トリかえ^三ました。いま読んでミス^三が
らしいところ^三がな^三よう^三なのですが、訂^三正^三し忘^三れた^三のかどうか、よくわかりませ^三ん。
他の抜刷^三と違^三て、「磨^三を用^三」と書^三てあるところが気^三にな^三ります。もし

皆様が読んでおかしところがあれば、指摘下さい。

縦②「有坂秀世研究のために―療養生活その他―」

ほほ吉池氏の抜刷と同じですが、P.ニミの「リューマチ」を削ったのは、身内の誰かから聞いたはずですが、印刷後、有坂愛彦先生夫妻に違うといわれたからです。

縦③「有坂秀世博士の学芸院賞受賞めぐり」

よけいなことですが、P.45の神川彦松氏は、宇治山田中学の卒業生で、東京帝大法学部教授でした。山中出身の父は、大学で神川教授の講義を聞ききました。専門はヒスマルクの鉄血政策ですが、戦後のの時期にはヒスマルクで学芸院賞をもらうとはできなかつたでしょうね。昨日、新聞に計報が多た神川正彦氏は、都立天法学部教授（新聞には國學院と神大のミソ）が書かれて、喜んでましたが、彦松氏の子息です。

P.85のリーダー、無線操縦の責任者

「研究」を入れるべきだったと思つたので、朱が入っております。できれば、入れて

いたたけませんか。

以上すべてにおいて、引用文やよりどころなる事実の確認は、もとづいたものをすくにさかせないので、当時、十分に念を入れて確認したはずだと
思うことにして、そのままにしてあります。

それにしても、私は、人の文章に難くせよつづることから発生している感
がありますね。どうしても、そういうところが気になるたちだったので。

それその作品に題目と著書名が書けてあります。著者名は必要ないか
と思いますが、編集にかかわることは、おまかせしてよろしいでしょうか。ただ、
なにかのことで具体的に検討する必要が生じた場合は、郵便でははか
どりませんので、直接に貴字にお訪ねすることも考えています。

愛知県立大での学食には参加しませんでしたので、地理的なところが
わかりませんが、公立共済の王山会館や私学共済の千種会館に宿
をとればいいでしょうか。

それから、「上代特殊仮名遣研究史の概略」では、私か余分なことを
書込んだら、この一冊が来ていますか、もう一方の二冊を送っていただけ
ませんか。私自身でこの一冊とそで入れれば、いようなものですが、最近では
不器用になつて、ハンチのぐあひなど、もうまくいかぬかも知れませんので、
お手教ですが、お願いいたします。

とりとめもなく書き列ねました、が、ご判読下さい。
ご健勝を祈念しつゝ。

敬具

三月十日

慶谷壽信

竹越孝様

【2009. 3. 18 竹越→慶谷】

前略

3月12日付のお葉書ならびに16日付の校正原稿3篇とお手紙確かに拝受いたしました。これほど早く第一便をいただけると思っていなかったのが大変驚き、また喜んでおります。

今後の進め方を含むお申し越しの点は、三人で話し合った上で改めてお手紙差し上げる予定ですので、とりあえず同様の作業を継続していただければ幸いに存じます。取り急ぎ「上代特殊仮名遣研究史の概略」のもう一方のコピーをお送りいたしますので、差し替えていただくようお願い申し上げます。

また、今後直接お会いして検討する必要がある場合には、我々の方で東京に出向きますので、お気遣いはどうかご無用に願います。

以上要件のみにて失礼いたします。お体にはくれぐれもご自愛下さい。

草々

2009年3月18日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 3. 22 慶谷→竹越】

1,

拝復 彼岸の候、清祥にぞおましのと存じ奉る。さて、貴簡と「研究史の概略」の一通目土に拝受しました。ありがとうございました。

④ 今回の金曜日は祝日になって、郵便が止まり代りに縦書きの封筒を返送いたします。

⑤ 質問点は、つま音(仮音)と小字にしてあること。略伝試稿(おま)では鉛藏氏の引用文、口語訳法研究の引用文もそうなっています。これは原文をよかしてから再校で訂正し奉る。「追悼講演会」は、山東等の一方音にもあつかいし奉る。「略伝試稿(おま)」からは大丈夫と思いきが、これも再校で点検します。校正は二枚まで、後はおまかせするつもりではどうでしょうか。

何度荷物もひろりかえしていきが、そのときにあだものが、つぎのときにはみあたらない、とつととくりかえしていき。ただ、ときには思ひかけぬものが多く来ます。目録で〇印がついて、ものすなわち吉池氏が抜刷の形でもっていきものです。その抜刷二点もお三方に贈呈します。

次回の返送は、大橋さんが多摩市まであきつにきて、と(三月二十日)、中国語学会の大例会(三月二十八日)、国地の春祭り(三月二十九日等)、それから、すし後のことになり奉るが、伊勢の中学校の同級会(四月七日)などでスピードがにぶりますか、ご容赦下さい。

右、まづは返事と今後の課題につて、ご健勝と祈り奉る。

三月二十一日

竹越 孝 様

慶谷 書信

敬具

【2009. 3. 27 慶谷→竹越】

拝復 もうすっかり春である。雪なのに、冷えき日が続いています。
ご清祥にてお喜びのことね。ます。
さて、貴簡昨二十一日に拝受しました。これまで校合のしかいまいちポイント未明かたので、お手紙により印刷所にもす前に訂正していただくことがわかりました。

今回は四頁、縦書きのものはこれで終了です。編纂の点は再校刷と分ればわかることでしょう。ときどきに書き記したことはありませんが、全体を改めて読んで、不統一です。編纂の点は、おまかせする。よにして、ま。できれば、再校刷でそのまますまさせて下さい。

これまで、初校では、気分的にも統一がとれて、ま。で、たから、再校で改めるようにします。点検作業では、文献やその点とあらかしのさかておまうに努めます。ばあによては、貴学の図書館で点検（たとえば、人類学雑誌（ひび））を依頼する。こともあ、かもし、ま。

今回は、旅にある前に、残りの横書き部分を送る予定です。つねに、清事の時も、しばらく、疲れがとれま。で、たから、す。進みか、に、か、か、か、ま。

今回、具体的には、それらのように記しました。
ご健勝を祈念しつ。

三月二十一日

敬具

慶谷 書信

竹越 孝 様

1.

拝啓 早春の候、清祥にてお暮しのこと存じます。
 さて、祭りがあつて、すししんどかつたのですが、予定どおり、
 旅立ちの前に投函することができました。
 手もとにあるファイルには序文と目次と初巻が残りのみ
 とりました。
 全体にどのように編集されるかわかりませんが、その初巻一覽
 に
 有坂秀世博士の論文について(口言談「一九八二、十一」)
 は
 言語空間へ読者のページ
 というところに投稿したものであつて、と表示して下さい。
 また、
 有坂秀世著「国語音韻史の研究(増補新校)」
 は、大修館「中国語」(昭和五十一、十一)の
 「私のこの一冊」
 という特集にのつたもので(三十二名中の一つだったか)あつてと
 示して下さい。
 なお、序文のことは、私が口言談「一九八二、十一」に
 投稿「前史―石塚龍彦から有坂秀世まで―」というたところ
 石「塚」となっています。
 また、「私の一冊」は、「私のこの一冊」です。
 以上、申し添えます。

2.

竹越 孝 様

問題となるのは、それぞれのとうで記しましたか、
 「国語音韻史の研究」か、「国語音韻史の研究」か、
 「上代音韻史」か、「上代音韻史」か、「上代音韻史」か、
 頭と悩ませました。もともと字物のこがズララだたからで
 しょう。再校のときに、もう一回悩みます。
 再校に必要なものがあつてそろつたわけでは無いのですが、
 再校は入念に、従ってスローペースでやります。
 初校の残り(この部分)かどどいたかどうか、心配しますので、
 お手教ですが、とどいたかどうか、すぐお知らせ下さい。今回のもの
 が紛失したりすると、再現に時間かかるように思っていますので、
 ニ化までの初校は、その先の姿がはきりしなかつたので、軽流
 した感じがあつた。
 それでは、よろしくお願ひいたします。
 健康を祈念しつう。
 敬具
 四月五日
 慶谷 書信

1.

祥啓 清明の候、清祥はおまじのほど大層に存じます。さて、貴簡、四月十日に拝受しました。再校刷は連休前にお送り下さるとのことで、とどきましたら、また精進しましょう。

ところで、さかしもの中から、「假字遣奥山路」の二冊が来ました。よくお話し、上代特殊仮名遣研究史の概略(長崎外語短大)で決断したところと違ってしまうのでありませぬ。不完全なところもあつて、昨日早大図書館に確かに行ってみました。早大のものは初版本です。

結論からいいますと

(表紙) 假字遣奥山路 上巻 (外題) かづつかひおくの山路ニ卷

(奥付) 假字遣奥山路 上巻 昭和四年五月

(表紙) 假字遣奥山路 下巻 (外題) 假字遣奥山路 中

かづつかひおくの山路ニ卷、假字遣奥山路 下 かなつかひ

おくの山路ニ之卷

(奥付) 假字遣奥山路 下巻 昭和四年 九月

となっています。従って、P.6の

「第一冊が「上」「二巻」、「中」「三巻」から成る。第二冊が

「下」「三巻」となっています。

右のようになっています。

文献目録の箇所も

「假字遣奥山路(上)」

「假字遣奥山路(中、下)」

伊藤書店、昭和四年五月

伊藤書店、昭和四年九月

2.

と訂正下さい。なお本文とも奥↓奥に改めて下さい。

名は、「假字遣奥山路」と二冊持っており、ゆゑの入手したのは昭和十九年の第三版で、これは製本し直したものを、極東書店関西支店(京都)から買つて、一九六〇年の納品書がはさんであります。

もう一つは、ハードカバーの古典全集本で、全二冊、昭和四年九月の版です。どう考えても、昭和四年五月の上巻と一冊にまとめたあつたものではなから思ひます。

「前史」の初校で、文献目録の箇所、

① 「假名遣奥山路(上)」

② 「假名遣奥山路(下)」

とあつたのを

① 假名遣奥山路(上)(中)と訂正して下さいますか、

② 「假名遣奥山路(下巻)」

と訂正して下さい。

お手数かけて申しわけありませんが、もう少しお願ひします。

ただし、すでに再校刷が作られた場合には、そのままの版です。再校で訂正します。

『人類学雑誌』等は、「略伝試稿」に関する分は、ひとりで

来ました。「療養生活その他」にも少しあつて思ひますか、

次回まわしにします。

郵便番号がクエタにも直前に事務からドサと配給された都の封筒もみつかりましたので、これからときどきそれを利用

竹越 孝様

四月十日

しませ。
おし急ぎ連絡がります。
健康を祈ろう。

敬具
慶谷 書信

【2009. 4. 24 慶谷→竹越】

拝復時下、清祥の事と存じます。

さて、貴簡、二十日に拝受しました。おの方は、昨日も早大図書館に於けて、予習をいたしました。すし後の方が予習がはかどるので、どうかゆくり作業して下さい。

切り貼りの作業は、大へんでしょう。心が痛みます。再校で「まるまる」の文字を大に切り換えて、ただ「し」が大量に「え」と思えます。申しわけありません。

ミニ一週間ほど、どうしたのか、坐骨と膝関節が痛めました。

図書館に於けて予習の量が、予えたせいで、今日はずし、痛くなりました。神経痛はやや、神経の病気が、なから、心に余裕が、いきに痛む、と前から思っています。

右より急ぎ、一筆認めました。

健康を祈ろう。

四月二十日

敬具

【2009. 4. 30 竹越→慶谷】

拝啓

立夏の候、先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

我々がもたもたしているうちに、先生のほうは再校に向けて日々予習に励んでおられる由、一同恐縮しております。大変お待たせしてしまいましたが、再校用の冊子が出来上がりましたのでここにお届け致します。また、初校の方はこちらでコピーを取りましたのでご返却申し上げます。お手元にお留めおき下さい。

今回の再校も初校時と同様、先生に朱を入れていただきテキストを確定させるために作った冊子です。基本的には初校で朱の入った箇所を切り貼りで訂正したのみであり、見た目の統一感や印刷の精度等にはこだわっておりませんので、このままのものが印刷に付されるとはお考えにならないで下さい。二度手間にはなりますが、再校で本文が確定しましたら、もう一度切り貼りで訂正を加えたのち、すべてのページを1枚ずつレイアウト用紙に貼ってダイレクト印刷用の原本を作る予定です。今回の作業は主に竹越が行いましたが、最終段階では3名で協力してこの作業を行うつもりです。

ご覧になってお分かりのように、今回は通しページを鉛筆で書き加えております。横組の部分には、縦組から続く右起りのページとは別に、左起りのページ数を付け、それをカッコ内に入れました。

全体の構成は、今のところ、

序（中村雅之）

目次

本文

校勘記

補注

あとがき（慶谷壽信）

編集後記（竹越孝）

というものを考えております。校勘記の部分で旧版と新版の違いを一覧の形で示し（ただし字体や仮名遣いの相違は挙げないこととする）、補注でその違いに関するコメント、例えば今回の初校で先生が附箋にお書き下さったようなコメントを挙げていってはどうかと考えております。なお、文章全体に関するコメントがあれば、それは「補遺」とし、例えば今回の「有坂秀世『劣敗者の人生観』について」の箇所のように、篇の最後に配置したいと思います。ただ、校勘記・補注・補遺の体裁については未確定な要素も多いので、今後も相談させていただくつもりでおります。

個々の篇について、先生がお書き下さった疑問点やご要望に対するご返答やご提案は附箋に記しましたので、併せてご覧いただければと思います。

前は2～3篇ずつご返送いただくようお願いしましたが、先生もお感じになられたように、これはあまり良くない方法だったと反省しております。途中で方針が変わった場合に、さかのぼって訂正することができないためです。どうも申し訳ございませんでした。今回は、すべての篇をじっくりご覧いただき、小分けではなく、ファイル全体をご返送いただければと思っております。刊行までのスケジュールからしますと、7月までにお送りいただければ十分かと思います。ただ、くれぐれも無理をなさらないようお願い申し上げます。

他にもご意見やご要望がございましたら、何なりとお申し付け下さい。では、これから暑い季節に向かいますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年4月30日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

拝復 薫風の候、清祥におおきくのこ存じます。
 さて、このほど、玉稿一篇賜わりましてありがたうございました。
 また、エーハンは、昨宵一日夕に拝受しました。
 ところで、初校の部分かどうなのか、心配になりました。
 二寸衝撃を停めます。ここで中止するわけにはいきませぬ
 か、校をうし、校かできます、補注を加える、としかできるだけ
 のようにも思われます。けれども、校をす、としか無理だ
 のでしよう。
 教日ゴシヤリしてすまします。
 右、まずは一筆、お礼まで。
 健康を祈らう。 五月 敬具

1.
 拝啓 うつとうしい天氣かぶっておりますか。
 お愛わりごいませぬか。おつかい申しあげます。
 さて、再校かどうやら終りましたので、お戻りいたします。
 けれども、再校まででいいと思っております。ただ、初校で調
 子がおまかせでしたので、朱を入れたところだけもう一回、
 みせて下さい。
 ミミで、いくつか気にとるところを列記します。
 一、編集に関するところで、初校かお申しのことでは、
 かもしルませぬか、毎篇ミミに「慶谷書信」と書く必要
 はあると思えます。
 二、文字に増減、特に増加するばあ、行を移動させることは
 むづかしいかもしルませぬか、移動かわすかのは、
 文字を小さくしながら、希望したところがあります。どうしても
 ためだったら、しかたがありませんか。
 三、比較的数量の引用文は、一字さげでゆめ、
 びいと思っております。さげずに書いてあるところがあります。
 そのようなところも、今回、原文に併せて二字さげに校正し
 ました。しかし、そのために小字を使うことにするのであれば、
 もとのままにして下さい。
 四、ミミとミミのときに裏の字がうつたのか、表面がよぶ、
 ところがあります。最終的段階では大丈夫と思っております。
 指摘をさせていただきますか。
 五、「療養生活」では、補注(1)があるほか、補注(2)、補注(3)
 を追加しました。それ以外のものでは、単に「補」として

追加しました。本文中に「六」と、小さな字が生じるからです。
「方敗者」の後に追加してある「神遺」は、他に例がある
ので、「単」に「補」とします。

六、「お生の地」には「字真」があります。この「の」のままでは、
それでいいのですが、「字真」が「お」が必要なら送りします。「字真」
は、すでに佐藤君によろそが作られていますが、いま見考
りませぬ。

以上のほか、私が書き落として置くことで疑問があります
たら、「照」を「下」下さい。

「あどかき」の原稿は、すまじお待ち下さい。六月中ごろは
書きあげつもりです。

今回もまたお手数をかけますが、寛恕下さい。
より急ぎ、右一筆認めました。
健康を祈念いたします。

五月三十日

敬具
慶谷壽信

竹越孝様

【2009. 6. 1 慶谷→吉池】

1.

拝啓 このよう、うとうと、天候がふるまいますが、
お元氣にお過ごしですか。おつかい申しあげます。

さて、先日、再校きもいたしました。最初は二度の校舎で、
思ったのですが、校舎の結果がどうかかわらなくて、初校は調子
があまりよくない。未に入れたところ、存、もう一回みせていただく
にしました。

ところで、校舎にかりきりで、最初にかかすおきたと思
いだしたが、そのままにほうて、まじった。

第一は、装丁のことです。研究書として刊行されるので
から、精裝本は無理で、『語学漫歩』のような平装本
なのでしようね。

第二は、本の贈呈、発送のことです。全部で三部と
うとですが、研究書によるとすれば、それ以上は無理なので、
私は、抜刷と若干手渡しの分を除き、一五の部くらいは送
いたしと思ます。もともと、手書きの添え書きをつけて、これは大変
なしごとでした。しかし、まじる人文書報が二年に一回の発行
ですから、なんとかが助かるといいました。

多くの大学や図書館に贈呈されるおつもりですが、
何部くらい、それに予定されていますか。私の希望する送り先
と大学、図書館分とをあわせて三の部で不足する上に、
はあ、たとえば、研究書充当分はそれとして、不足するな
部分を抜刷自己負担のようは形で、私が何部か希望す
るというのはいかがでしょうか。

通常の抜刷発送りは、今回、やはり多くを思うます。

高天の高田之とか高天國又の木田義章之とかには、抜刷を
送るべきでしたが、さういふわけにもいきません。今回は自分
の限られた通算の数が多くならざるをえません。それにたとえは、
いこの子は、最近やと、着述拾遺の古本屋で入手したと
かで、車門家では、身内とか、先生か、友人にも若干部
を送りたく思っています。これは、多分ありせん十五部くら
いです。

図書館については、学習院大学、学習院初等科、攻玉社、
大正大学、日比谷高校、呉の入船山記念館、早稲田図書館等
は、欠かさないし、私の身地、伊勢平図書館、現住地の
多摩平図書館も含めたいと思います。

大学、図書館が何部くらいに見積りかかるとかによつて、
対応のしかたが決まってくるので、お考えをお聞かせ下さい。

頭の痛くなる話題は、このくらいにして、金田一春彦氏に
あつた有坂書簡（「山東冬の方」について）は関係するもの、
その一とお持ちとは恐れ入りました。私の「有坂書簡集
I、II、IIIと全部コピーされるようですね。

追悼講演会における大西雅雄氏のコメント（これはお持
ちかもしれません。）と言語学会の会員にあっては、追悼講演会
の通知と同封します。言語研究 四二二、二、三合併号は
もつと詳しく載っていますから、実用的価値は低いですが、
これは風間臺代三先生の会費請求書なのです。

まとももどく、乱筆で書き列ねましたか、何とぞ
判断下さい。
健康を祈ろう。
敬具

六月一日

慶谷書信

吉池孝一様

1.

拝復 芒種の候、清祥にてお暮しのと存じます。

さて、貴簡、拝受しました。

再校による版下と作られることですが、再校の朱点の箇所をもう一回、しはてきやうか、版下かできて

いは、訂正する余裕もひくうと思ひますか。

ところで、「略試稿(おま)」の四二ページに鈴木真喜男氏の有坂博士の「音韻論」(ぶつれつと号)と引きました。

点検のとき、あはしく「ぶつれつと」がみつからず、「著述拾遺」にある遠藤由里子さんの「有坂秀世博士関係著述目録」とみただけです。再校と探しとから、その「ぶつれつと」がみつかりました。

(同封の「ぶつれつと」が悪いものですが、返却には及びません。)

これによると、表紙、奥付(裏表紙)とも「ぶつれつと」で、二つの「つはすし」小さいようですが、これまで「だわい来た」ところ

によれば、つ(大)とがきものように思ひます。早速、三看堂に電話してなぬきましたが、二〇〇二年に廃刊に当たろうと、

直接の担当者はいらぬので、私の質問の意味と理解してもらえませんか。いま、よく眺めてみると、二つの

「つはすし」小さいかなと思ひます。どのように判定されますか。吉他氏、中村氏は、どうでしょう。強いてそろそろ「ともが」

かなと思ひかけて来ましたが、最終的に三氏の判定に依ります。とり急ぎ、以上、二点について認めました。

三健勝を祈念しる。

敬具

2.

六月四

竹越孝楯

慶谷壽信

【2009. 6. 10 竹越→慶谷】

拝啓

梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨日、中村・吉池・竹越の3名で今後の方針について話し合う機会を持ちましたので、その結果につき簡単にご報告申し上げます。その際、吉池氏宛のお手紙も見せていただきましたので、お問い合わせの件についても触れさせていただきます。

まず装丁ですが、公的な資金を使って印刷製本を行うこと、『KOTONOHA 単刊』の1冊として刊行することから、平装本といたします。

また部数は、『単刊』シリーズを一律300部と決めておりますので、今回もそのようにさせていただきたく存じます。大学・図書館の送付先は多くても100部と見積もっておりますので、全体として300を超えることはないと考えております。万一超過した場合は、来年度に増刷を行うつもりです。

次に体裁についてですが、ご希望通り著者名の部分は削除いたします。また、こちらで通しページをつけると、篇によっては3箇所ページが入ることになるので、もとの論文ページは一律に削ることといたします。

校正に関しては、ご希望通り小字はできるかぎり使わないようにするとの方針を取ります。「つ」などの一字直しは、当該論文中の文字をコピーして使うことといたします。また、引用の一字下げは、行わないこととさせていただきます。

また、『言語』所載の写真について、ポジをお借りできますと幸いです。

なお、「ぶっくれっと」の「つ」ですが、我々としては小さい「つ」であろうとの認識で一致しました。

今後は、①きれいなコピーを取り、②切り貼りで訂正を加え、③修正液でヨゴレを消し、④レイアウト用紙に貼りつけ、⑤コピーを取って、⑥ページを印字する、という作業を1篇ずつ、3名が協力して行っています。まず来週、第1篇「大正大学の有坂秀世講師」に着手しますので、それが終了した段階でサンプルとしてお送り申し上げますつもりです。

では今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。暑い季節に向かいますが、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年6月10日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 6. 17 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先にお知らせしました縦①「大正大学の有坂秀世講師」のサンプルをお送り申し上げます。概ね先便で記した方法によって作成したもので、再校も同封しましたのでご確認いただければと思います。特に問題がなければ、ご返送いただくとも結構です。夏休みに入るまでは、毎週火曜日の夕方をこの作業に割くこととし、とりあえず1篇ずつ作成していく予定ですので、その都度お送り申し上げます。

では、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年6月17日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 夏至の候となりました。

清祥にてお返しのこと存じます。

さて、六月十日付、十日付二通の貴翰、拝受しました。また、今回は「大正大学」のサンプルも拝受しました。掲載誌が「国語学」で、旧字体が使われてもろえるかどうか、わからなかった段階の旧字体ですから、これで構いません。

結局のところ、サンプルとは、三枚刷りとしてですから、今後もぶつけて送っていただいて、早くすませたいと思っております。

ここで写真を送ります。本来は、五男秀世、巴須磨子、三女雪子か三で字をいすものがなく、それと半分にし、さらに半分にしたものが、おまじとして使われているものです。その三種とも同封しました。

今回の作業に関係の多々ミミですが、以前から

貴兄にうかがいたこと思っていたことかありました。たまたま、思ってもかかず、みつかったたがキのミミと同封します。

以前、鹿児島大学の人から、抜刷を求められました。学芸員鈴木真喜男研究室に所蔵されている有坂蔵書の目録のミミも求められました。たが、私が勝手にミミと渡すわけにもいかず、鈴木氏から許可をもらうこともうございました。今から二十年前のことです。具体的なことは一切忘れましたが、そのような志の人が鹿児島大学におられることはだけは忘れませんでした。今回、あ

2.

人にも二本を呈したと思っております。たが、いのようにしてつまずいたのは、宿題として残されたのです。

三輪伸春氏は、やはり年下だったと思えますが、それでも定年まで生きていかむしれませんが、この住所はそのままだかむしれませんが、三輪伸春氏とつまずいたところからかかてきます。

「あとがき」の原稿は、未園中に送ります。下書きはできたのですが、原稿用紙に書く段で、何度も書き直さなくてはなりません。原稿用紙は、最後に、水谷先生お譲り本原稿、水谷先生お譲り原稿用紙に書く予定です。二〇〇字語原稿用紙十枚ほど。

今回はミミまでとします。
健勝を祈念して。

六月十九日

敬具

慶谷書信

竹越孝様

【2009. 6. 24 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

お手紙ならびにお写真、確かに拝受しました。ありがとうございます。お写真のほう、大切に使用しますのでしばらくお借りさせて下さい。お手紙にあった三輪伸春先生は鹿児島大学で同僚でしたが、私はもと教養部ということで研究棟も異なり、数えるほどしか言葉を交わした経験がありません。このような志向をお持ちの方と知っていれば、もっと話しておくのでした。三輪先生は1947年生まれですので、連絡先は「〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学法文学部英語学研究室」でよろしいかと思ます。

引き続き縦②「有坂秀世研究のために一療養生活その他一」の三校をお送り申し上げます。再校も同封しましたのでご確認いただければと思います。

では、お体にはどうかご自愛下さい。

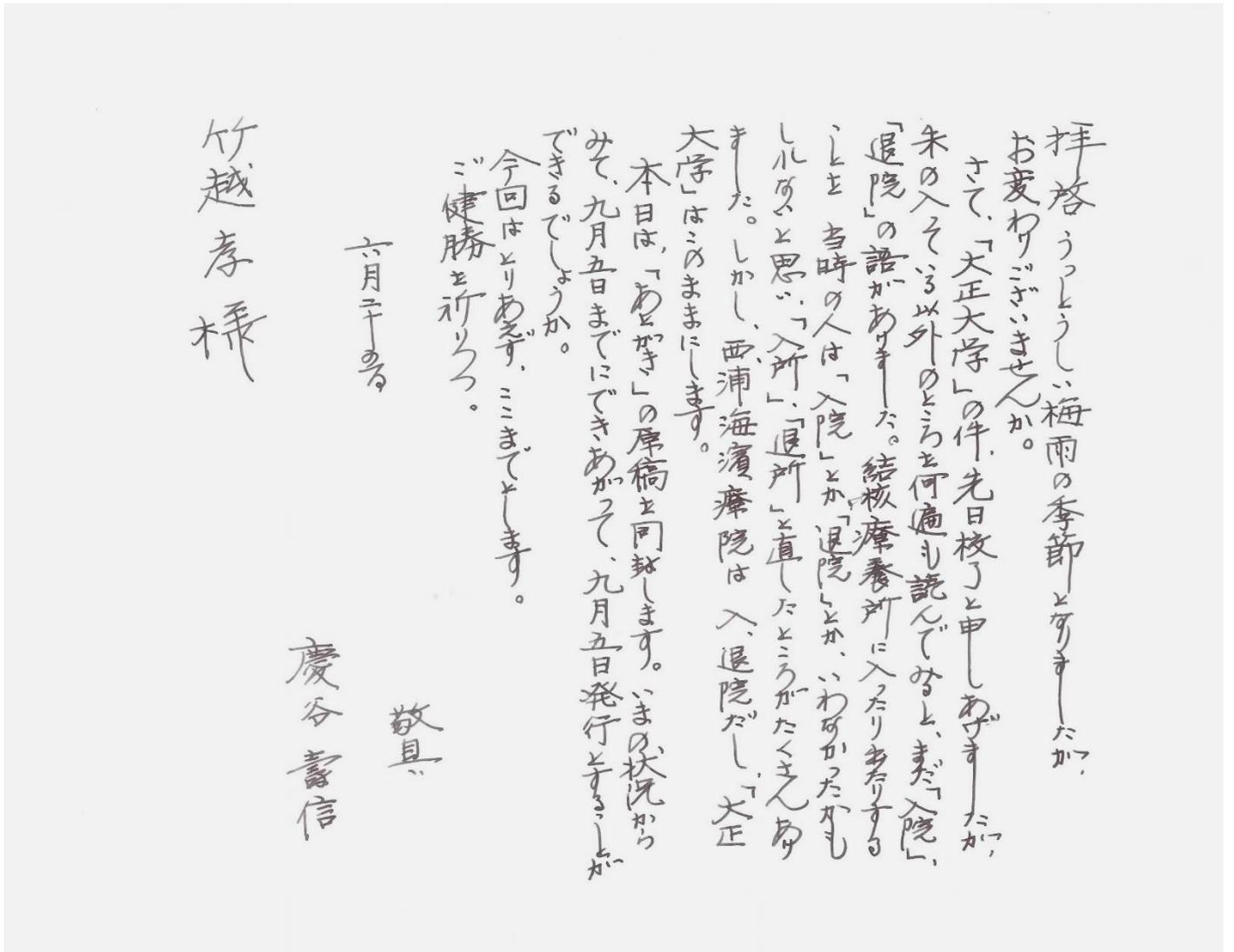
敬具

2009年6月24日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 6. 25 慶谷→竹越】



拝復時下ますます清祥のと存じます。

さて、貴簡と「療養生活」の三枚刷を拝受しました。未に入れたところをみれば、問題ありません。

全体を読み返して問題ないかどうかは、これから確かめます。

この「療養生活」は、人文学報のページ教をとりまきごまつに遠慮して引用文を二字下げにしたかったものです。しかし、これで読んでみて、支障もありませんから、その点はそのままにします。

三枚刷がどしどし考考のを期待します。
健康を祈ります。

六月二十三日

敬具

拝啓 うつとうし梅雨のちと可なり大か、
清祥にてお暮しのと存じます。

さて、はじめにいただいたお手紙では、十月末の発行、また枚を八月末にすましてもうえば、と仰じていたか、九月五日発行にできるよと精まわりました。いまの調子で九月五日発行にできませんか。

それから、刊行部教の件は、三〇部ときまっております。返事を竹越氏を通じて受けてきました。研究費の執行のため、そうせざるをえないのでしうが、ざつと教えただけでも、極めて個人的なものを含めて二〇部主軽超えそりに思います。不足部分は来年度予算でとらう。とてしたから、せうかく私かせうせとしと進めて以上、私の極めて個人的なものまで含めた上で、送り先に心残りのないように、二〇部以上をまわっていただけませんしうか。後日、作る送付先名簿をさうくいただければ納得していただけると思えます。また名簿は作らありませんか。それで、先便で抜刷の自己負担分のようなあつかいできなにかまうかかったのです。竹越氏の方にも何度か、書いたように思えます。

来年度も印刷できるのであれば、研究機関、図書館のあるものは後まわしにして、もしかするとそれまでに死ぬかもしれぬ、私の方を優先して下さい。皆さんの好意でやっていたのに、私の方に悔が残ることのなようにお願ひしたいと思います。

吉池孝一様

六月二十一日

慶谷壽信

敬具

私
の
知
る
年
代
は、
若
し
と
う
で、
四
十
歳
台、
現
在
の
大
学
院
生
く
ら
い
の
人
に
は、
希
望
者
に
贈
呈
す
る
こ
と
に
し
て
も、
こ
と
を
思
い
ま
す。
(
た
だ
し、
第
二
刷
で、
)ミ
ル
は、
訂
画
が
キ
ャ
ー
ト
す。
前
の
佐
藤
進
氏
の
意
見
で、
日
本
語
学
会
の
機
関
誌
に
通
知
を
せ
て
も
ら
う
た
ら、
と
う
こ
と
を
し
た。
あ
つ
か
き、
い
お
願
い
と
な
り、
私
の
方
も
気
が
減
入
り
ま
す。
が、
こ
の
点、
な
に
と
ぞ、
ま
り
し
く
い
お
願
い
ま
す。
な
お、
あ
つ
か
き、
は、
昨
日
予
言
に
送
り
ま
し
た。

右、
ま
す
は、
一
筆、
い
お
願
い
ま
す。
い
お
健
勝
を
祈
ら
う。

【2009. 7. 1 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

引き続き縦③「有坂秀世博士の学士院賞受賞をめぐって」及び縦④「有坂秀世博士の出生の地とその父鋳藏博士のこと」の三校をお送り申し上げます。再校も同封しましたのでご確認いただければ幸いです。

また、本日吉池氏さん宛でお寄せいただいたご要望について話し合いました。第1刷として300部を印刷する方針については変更ありませんが、先生にはその内250部をお預けし、ご自由にお使いいただくということで如何でしょうか。なお、大学からは研究費で印刷製本を行う場合に、その一部を私費でまかなうというのは経理上問題がある、100%公費でなければ100%私費しかない、と言われております。我々も苦しいところですが、この点どうかご了解いただければと思います。

では、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年7月1日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 7. 3 慶谷→竹越】

拝復 うとうし、梅雨の季節がきましたか。
「清祥」にてお返しのこと存じます。

さて、七月一日付貴簡と「学主院賞」、「お生の地」の
三校刷を拝受しました。朱の入るもので、「字下げを陰
く以外はすっきり直しています。一字下げも簡単」にできそう
な感じもあつた感じがします。と、いふことになり。
第一刷中の二五部を自由に使用していただけるとのこと、
ありかた、次第です。いづきに何部かは、これから
ゆくりと調べます。

右まは一筆、認めました。
「健勝」を祈らう。

七月三日 敬具

【2009. 7. 11 慶谷→竹越】

拝啓 小暑の候、いかがお過ごしですか。おつかい申しあげます。
さて、今園中に三校刷がとどきまから、その受領の区事で記す
ことにしていきまいたが、いま、ミニに記します。

(1) 大正大学
P. 9. 注の「元小中教育委員、同教育長の個所、すゝおか」と思て
いま、注の「都立方言学舎の巻頭のトドモトがひかり、そゝでは「教育委員
(三期十二年) 教育委員長(三期十二年)」と記されていますが、
「教育委員」は教
育委員長の誤りと思ひます。恐らく「教育委員」と「教育委員長」に訂正
下す。文字送りには、
(2) 略伝「補」を「山崎不夫氏の引用文「同室の右に補」の字を
その補に「東登身五番室、六人部屋」と書きたうに覚えて、三校刷で
「六人部屋」と「八人部屋」と訂下す。

「健勝」を祈らう。
「健勝」を祈らう。

七月十日 敬具

【2009. 7. 15 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

1週間空きましたが、引き続き縦⑤「有坂博士追悼講演会について」及び縦⑥「有坂秀世略伝試稿—出生から高等学校卒業まで—」の三校をお送り申し上げます。再校も同封いたしました。また、7月11日付のお葉書でご指示いただいた点も修正しましたので、「大正大学」の当該ページにつきましてもご確認いただければ幸いです。

では、今後ともよろしくお願い申し上げます。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年7月15日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 7. 15 慶谷→吉池】

拝啓 梅雨あけときました。
 清祥にてお返しのこと存じます。
 さて、このたびは、二五〇部を和関伴の寄贈分にかけて
 よいこの返事をいただきありがとうございました。
 名簿を作りあげ、めでたき事かなくみわすと、これにて
 一杯一杯と感ず、強欲なまで申しわけありません。
 そのほかに、来年度の第二刷に予定したのが吾部
 くらゐあり。特に都立大の若入(昔)の中心にあり。
 ところで、このほど、都立大方言学会の、大正大学の有坂
 秀世講師の発表のときのハンドアウトと、都立大
 方言学会会報の第99号の発表要旨がわかりました。
 長崎から帰る身辺整理中、めどきに処分したか
 と思いきや、たが偶然に残す、ました。ともに謄写
 アスで印刷されたものです。発表要旨の方は二種あり、
 これは佐藤君とった写真がついてる方です。
 ハンドアウトは、私のエンピツ書きのメモ帳が消えかかそ
 来て、自分で、これがあそよかたなと思っております。
 なにかの足しになるかと思ぞ、お送りいたします。
 健勝を祈ります。

七月十日
 敬具
 慶谷 壽信

吉池 孝 様

【2009. 7. 17 慶谷→竹越】

拝復 暑い日が続きますか、健勝にてお過ごしのことと存じます。
さて、本十巻、待ちに待った貴信と「追悼講演会」の略伝試稿「先生」の三校刷と「大正大学」の訂正。ご拝受しました。
未のところは、まだ校了です。それ以外のところは、これから通読します。多分、問題ありません。
ご多用中とは思いますが、今後どうしお送り下さい。
おからだ大切に。
七月十号
敬具

【2009. 7. 22 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

引き続き縦⑦「有坂秀世『山東系の一方音について』をめぐって」及び縦⑧「有坂秀世略伝試稿—大学入学から卒業まで—」の三校刷をお送り申し上げます。再校も同封いたしました。前者に引かれる有坂氏の書簡については「つ」の大小に関する指示がございませんでしたのでそのままになっておりますが、これでよろしかったでしょうか。ご確認いただければ幸いです。

では、今後ともよろしくお願い申し上げます。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年7月22日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 大暑の候ハレど、清祥にておすしの
こと存じます。

さて、本二言、貴信と「東系」、「略信試稿」大学
卒業の三枚刷と拝受しました。

「山東系」に引いた金田春考氏あての有坂書簡で
つぼやよしの計今所は、拙稿のように小字のまま
ありました。関係する4ページを同封いたします。

なお、おまの「い」が「い」か「い」かと思ふ事が活字では
なかり、しかたがなのでしようね。

「こ」で「つ」大事なこと気づきました。「山東系」P.146校

拙稿「療養生活」にも記した(P.20)ように

これは通しページで書くときの表示です。一冊本にしたときの
ページ数が印刷されてゐるは、三枚刷がりなので、この
参照ページ数の表示の統一は、これまで考えて来ませんでした。
どうしたらいいでしょうか。

「山東系」は、同封したとおり分以外の朱の入るところは
校了です。

「略信試稿」大学卒業の朱入ったところは、校了
あつたです。

ともにそれ以外のところの通読は、これからです。多分、
大丈夫でしょう。

2.

ところで、昨二言の昏既日蝕の報道のさいに、硫黄島
方面にあられたクルーズに藤田良雄先生が参加しておら
れることがわかりました。年賀状にクルーズで観測す
とあったのですが、そのとおりでした。

藤田先生の生誕一百一年の日は十月なので、「あつた
」のともあつて、微妙に心配してゐたのですが、この分では大丈夫
でしょう。

右、事は一筆、受領の事まで。
健康を祈ります。

敬具

七月二十三日

慶谷 貴信

竹越 孝標

【2009. 7. 24 慶谷→竹越】

竹越 孝楯

七月二十日

慶谷 壽信

不悉

前略
 山東系への件、前回送分で「大丈夫」といって来たが、
 大丈夫では無いところがあつた(47ページ)。
 150ページのときは、誤りではあつたが、どりかえて
 いた方がよいでしょう。
 「略信試稿」—大学卒業—の方は、大丈夫のよう
 です。
 軽々しく「大丈夫」ということは使いたが、(一〇二頁)
 の方が「大丈夫」なることを祈ります。
 以上、2ページを返送申あげます。

【2009. 7. 25 慶谷→竹越】

暑中おめい申あげます。
 厳しい暑さにもおさわりたくありません。
 さて、参照ページ数の件。
 これは、注と限定、本文にも急ぎを要するので、総ページ
 数を示すのは、やっかひな事と思われず。縦書きの、特に日
 本文字報では漢数字のページ数もつて、事、縦書き
 のは、pp.〇〇とあるものをアラビア数字で示す(併に漢字
 のは、〇〇)のは、難しうしく、漢数字を使う事もあつた。
 表示方法を統一して、その上で総ページの参照ページを
 示すとは、私にはとても難しうしく思われます。
 九月五日発行とう至上命題(皆々へと共通の認識には
 至らず、ひんかもしるま)が、に押しつぶされそうで、
 いまの私には、ページ数の問題を処理する気力は残すこ
 えません。編集者の方で処理していただければ、ありがた
 思います。皆々で相談下さい。
 いまは、このことで夜もねがれません。わか神終も茶縮
 して、なまけりな限ります。
 これまでのところでは、三校刷のできあがりところを待参
 て、八月六日の有坂富子氏の命日に、へん光寺の墓前に
 報告するつもりでありますが、たが参照ページ数の表示処理
 に三校刷が心算であれば、送り事から、ご指示下さい。
 右、まは一筆、認めました。まうしくお願ひします。
 七月二十一日

敬具

2、

竹越孝様

慶谷壽信

【2009. 7. 28 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

7月23日、24日、25日付の貴簡拝受いたしました。急遽三人で話し合った結果、参照ページについては一律、

【本書〇〇頁】

の形で横に注記することといたしました。遑って修正が必要なものもございますが、とりあえず縦⑦「有坂秀世『山東系の一方音について』をめぐって」において修正を加えたページと、縦⑨「有坂理論の展開—『音韻変化について』のばあい（上）—」の三校をお送りしますので、ご確認いただければ幸いです。

では、今後ともよろしく願い申し上げます。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年7月28日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

【2009. 8. 1 慶谷→竹越】

拝復 暑い日が続きますが、もう夏休みに入りましたか。
清祥にてお喜しいの事存じます。
さて、七月二十九日消印の貴信と「有坂理論」上の三校刷、
「策系」の校刷7枚、参照ページの見本5枚とを拝受
しました。
四校刷はOK。「有坂理論」上にも問題ありません。
参照ページの件は、なるべく先に解決できるのかと
感じました。今後、他の箇所もおまかせしますので、よろしく
願います。すし気分が楽になりました。
おとり急ぎ、報告まで。
健勝を祈念しる。
八日一日 敬具

【2009. 8. 5 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

8月1日付のお葉書拝受しました。引き続き縦⑩「有坂理論の展開—『音韻変化について』のばあい(下)—」、
縦⑪「上代特殊仮名遣い研究史の概略」、縦⑫「有坂秀世博士略年譜稿」、縦⑬「有坂秀世博士の論文について」、
縦⑭「有坂秀世博士のこと」計5本の三校刷をお送り申し上げます。再校も同封いたしましたので、ご確認いただければ幸いです。今回で一応縦組は終わったこととなります(遡って参照ページを訂正すべき個所を除く)。

そろそろ印刷製本の見積りを取る時期となりましたが、表紙の色については何色が好みでしょうか。

今後ともよろしく願い申し上げます。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年8月5日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 立秋のうらとりました。これから本格的に暑
なるとかういしで閉口です。

「清神」にておすしのことね、ます。

さて、本八月首、貴信と縦書きの残り全部を拝受
して感激しました。「略年詩稿」の終りに組替えかめ
ので進んでも、その前の「仮名史の概略」までだろうと思そ
いました。

「概略」では、これまでの見落としが一つ、字体的とかう、前々
から気をつけていればよかつたものを、申しわけありません。

「言語」の投書にも一点ありました。以上はとりあえず気が
たもので、これから通読します。

表紙の色のことは、まだ考えていません。下の方ですし
「猫子」下ま。好きは色は、フコキ（永町）かわいで使われ
ていふとかう）の紫色なのですが、同じ色があつたらうか、
そうではなければ、うす緑色ですか。

ところで、投書や同字社の文章本にある「多摩市」か、
「東京都立大学教授」とかは、削るべきか。たか、「大正
大学」もいつている。「東京都立大学教授」は、「昭和
和五十七年十一月十日（受領）」は、このままですか。

右まは一筆、受領のお知らせまで。
「健勝と祈念」つづ。

敬具

2.

八月七日

竹越孝様

慶谷貴信

前略

八月十日付書簡にもれてたものも追加します。

P. 26 言(た)だ...不注意でした。

P. 28/ 音聲組織 大事なことどうしたの(どう)か、と思ます

P. 26! ヨコレでしょうか。

それ以外は、「文」、「史」の問題です。ほかのところでは、「文」、「史」は注意して表記してあるので、...もそうして下さい。

「八月十日付」書簡に入れたページ中に「文」、「史」があるかどうか、わかりませんが、もしそこにもあれば統一して下さい。

お手教をわざわざわたくし申しわけありません。

不恭

八月十日

慶谷書信

拝復 秋とは名ばかりで、よよよ暑くなりました。清神にてお過ごしのことと存じます。

さて、昨十日に貴信と横⑦、横⑧、横⑨、横⑩の三枚刷りと八月七日の三枚にも修正(修正可)の三枚刷りの中に入れてしまったので、何枚あったかわりません。ぼんやりしてすみません。と拝受しました。

八月十日付で追加した三枚とあわせて、よよよ次回で終りになるのかと思うと、感無量です。

今回は文字の不鮮明もの(二箇所)と文字の上下の位置がずれているようにみえるもの(三箇所)があって、三九ページの一枚を同封します。

「あとがき」にもすぐりかかるとして、ううから、「あとがき」の二とをすし記します。

「あとがき」の「け」ののところ、

「その字読の...」にすまなかった私「の次の()」内は、読むのにいまだ、注にした方がいかなと思いましたが、後の方の()内は注にするほどのこともなく、迷いました。結局、このままにして、おきますしう。

二ヶ所、文面を渡更させていただきました(三枚)それから、引用した有坂書簡の部分が校正する(必要のな)ようにするため、旧字体(字形)に○をつけておきます(三枚)

竹越孝様

八月十九日

それでは、ますますお願ひ申し上げます。
健康を祈念しつゝ。

慶谷壽信

敬具

「劣敗者の人生観」以来、もうすかり秒の意図が
おわかりのこととは存じますが、時間の節約のための
蛇足です。

【2009. 8. 19 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

8月10日付及び15日付の貴簡拝受いたしました。引き続き横③「有坂秀世博士の卒業論文について」、横②「有坂秀世「音韻論」(『音聲の研究』第VI輯)の成立に関する卑見」、横①「前史—石塚龍磨から有坂秀世まで—」計3本の三校刷をお送り申し上げます。再校も同封いたしましたので、ご確認いただければ幸いです。また、三校に基づいて修正したページ、遡って【 】内に参照ページを付加したページも入れましたので、合わせてご確認の上、差し替えていただければ幸いです。

さらに、今回は「あとがき」の初校刷も同封いたしましたのでご確認いただければ幸いです。一連の作業を通じて校正に伴う小字はほぼなくなったかと思いますが、書き換えの要があればご指示下さい。

我々にもいよいよ終りが見えてまいりました。お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年8月19日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

1.

拝復 処暑の候と仰せられたが、おし暑く日でした。
最後の格刷がとじて、無我夢中のように時が経ち
ました。

時下は清祥にて事なきしと存じます。

さて、貴信と四枚刷 P. 246, P. 257, P. 264, P. 266, P. 287, P. 299
の紋と横①横②横③の三枚刷、「あとかき」の初枚刷
と二白に拝受しました。

二白まで、横②横③、「あとかき」から六枚を返送
申しあげます。

参照論文のページ教に關するものも送っていただき
ました。これはおまかせしていただきますので後日拝見す
だけになります。(一つだけみかけました。)

小字の件は、「前史」の「金田宗助」→「金田宗助」の
ところと、「良園」の「層々」のところだとおぼしめますが、
いま直して尋ね。小字がなぐぼりすると、「あとかき」
を削らねばなりません。これから全部も点検して、また
連絡いたします。

これまでのご労苦に感謝するのみです。
健康を祈ります。

敬具

八月二十一日

△

2.

竹越孝楯

慶谷書信

1.

拝答 処暑の候とがりました。
清祥にてお過ごしのことと存じます。

さて、ここに至る、まだ相談して頂くことがあるのに
気がまきた。本の中には有書きとけるかどうかですが、
知るべき人はかりか対象ではありまないので、有書きま
けた方かと思っております。表紙や扉のようすかどう
わからずなので、何ともいえず、表紙がきちぎれやすいと
困りますので、表紙と扉のテプラだけに、書名、有書き
著者名を記入して下さり、厚付には有書きは
要りません。有書きは「東京都立大学名誉教授」
として下さい。またかきも「首都大学東京」とはしないで
下さい。この点は、古代文字資料館の皆さんも同じ条件
ですから、冗談めいたものですが、私が退職した平成十一年
三月には「首都大学東京」の影も形もありませんでした。
履歴、あるいは略歴は記しません。口著述拾遺のとき
は愛彦先生に「編者紹介」をつけた関係で、おかげも
簡単な「紹介」を下さったが、今回は不要です。
献呈の辞は、なしにします。口著述「あるは」献呈
著者「ぐらうぐらう」と思えます。口著述拾遺では「諸先生
各位」であって「献呈の辞」を記入したか、「献呈の辞」を
入れず、「あるは等」と重複してしまっています。また「缺
陥だらけの過去の偉業の再発表」を書くことにはなれません
から。

2.

それから、寄贈先名簿を同封します。

その中で、萩原久美子さんのところが空白です。萩原
さんはフランス人と結婚しました。フランスであって手紙を書き
カイルのレールキードの工場について調べているように頼
んだりしました。その後、連絡がとれなくなりました。都立大
学方言学舎今報、第9号の後に、お筆者として名前が
挙がります。私は、萩原さんに恩義を感じており、口著
述拾遺にも渡さるようには、のけてあります。目下、照会中
ですが、しばらくしても連絡がとれない場合には、私があきら
めし、渡すので、おめでに送ります。

ところで、寄贈先は二五〇名としかかいてないので、強
断なようですが、二五〇名分を並べました。

都立大中文関係のところに、古代文字資料館の
お三方のお名前も挙がります。刊行側が寄贈される
のはおかしいというところ、おかげも、私に話を
にらしたと思っております。

東京大学中央図書館

早稲田大学中央図書館

と私がどこかで書き落として名簿に入っていない、

阿止哲次氏

お加えていただけませんか。

来年度中に第二刷を準備しようかと思っております。
今回有るお名前が、主として教員の方々の名分
五〇部ほど入っています。ただ、

この点もあつかいのお願ひがります。
それから、抜刷の自己負担のようなくは考えず、い
とどうとでしたか、郵送料の点はどうなりますか。お
分の負担としていふと考えてますか。

いろいろお手教とわざわざうかがいましたが、まもなく完成する
ようで、いろいろとありがとうございました。

古代文字資料館の皆さんに心からお礼を申し上げます。

乱筆、乱文、判読下さい。
健康を祈念しつゝ。

敬具

八月二十三日

慶谷書信

吉池孝一様

【2009. 8. 29 慶谷→吉池】

拝啓 今日あたりは、すーし暑さが減ったようにも
思われます。

清祥にておかしのこと存じます。

さて、貴簡、本二十九日に拝受しました。

ところで、送付先名簿のことで、大失態を犯してしま
いました。最も関係の深い「釘貫亨」氏が抜け落ちて
いました。「名大関係」のところで、田島勲堂氏の隣り
にでも入ルようかと考えながら、結局、どこにも入ルことが
ありません。

お手教かけて申しわけありませんが、名簿のNo.13
ページの左端に同封の紙片を貼付していただけません
でしょうか。

その代りに、一名削らなければなりません。「名大関係」
のNo.8(ページ)の「行目」にある「森脇純」氏を削って
いただけませんか。采華書林の故「森脇英夫」氏
とは学生のときからのつきあいで、抜刷も呈上したりして
いました。今回、森脇純氏に送る、森脇英夫氏の
「霊前に供えていただく」と思っています。また、機
会に譲ります。

釘貫氏も欠いたのは、大へんなまちがいでしたか、ほか
まちがえしても、これほどのものはないと思っています。もし
お気づきのところがあれば、お教え下さい。

それから、都立大中文関係「No.5(ページ)」11行の
謝添基氏の郵便番号が書いてありません。照会

した結果、「116」でありました。

一度ですみしとお手教わさうわして申しわけありません。
健康を祈念しつろ。

八月二十九日

敬具

慶谷壽信

吉池孝一様

【2009. 9. 1 慶谷→竹越】

前略

最後の追込みに入ら極めて「多忙の」とあります。
この段に至るまでに申しわけないですが、「一気」がどうかが
あります。

有坂秀世「語綴沿革研究」にみえる「Vowel-gradationの法則」
P. 三〇七 下から10行の（〜11行の）

後に前掲「古代日本語に於ける音節結合の法則」

直るものなら、直していただけませんか。
右、とり急ぎ、一筆お願ひまで。

九月一日

不悉

拝啓時下ますます清祥のこと存じます。

さて、名簿の件、三点、はきりしめたいことがあります。

その一、故重松鷹泰氏甥で元都立大学生部長の鈴木浩平氏の住所は、そのテニス仲間であった佐藤健氏に依頼してあったのですが、いよいよなると、九月三日に都立大学生課（学生部）とうものりし。へ行って調べてきました。本人も張中なので、これでよいかどうかは確認できませんでしたが、お張から帰ると明日夜にでも確認します。建その北は、至急、連絡一事。

その二、東京信愛教会、遠藤由里子氏に照会中です。手もとに住所が控えておなばあは、直接、愛知県立大学外国語学部へて通知ともうごとしてあります。控えてなかったばあには、その方、私、あて連絡があります。そのばあには遠藤さん分とらしよに送るにたいて、適当な機会に教令に渡すともうごとしてします。

その三、魯國堯先生、都夫夫（南大沢）米学の御、著述拾遺、に呈上しました。魯先生以外に有坂氏関係の中国人の知りあひはあります。ただし、魯先生とも通常のつきあひがないので、住所も知りません。急かさないが、どうかお願ひをします。もとも、無理であれば、然るべき目も人、控えます。

右よりしくお願ひをします。
健勝を祈念しつ。

敬具

2.

九月三日

竹越孝様

慶谷 蓄信

拝復 朝夕すしやすくなりました。
 清祥にておすししることを祈ります。
 さて、貴信、昨日に拝受しました。
 九月五日に現物を持って心光寺に報告できれば、と思えて、まじな
 夢想に終ったまじです。でも、それとそれほど距離ある今月中に、ま
 あかればすしとまじです。
 ところで、五十名追加の件、まだ送っていただけるとはうれし、限り
 二、ろ中に貴死あてに名簿を送り事から、しづくお待ち下さい。
 とりあえず、一筆、送事まで。
 健勝を祈りつつ。
 九月三日
 敬具

1.
 拝啓 白露の候となりました。
 清祥にておすししることを祈ります。
 さて、九月三日付の貴信にりますと、ろには金原稿と
 印刷業者に渡されたとのこと、特に八月下旬からの皆様の
 労苦に深甚々謝意を表します。一方、魚付につく発行
 日か九月音がどうか、ちよっ心配にります。
 ところで、元都大、浮生部長の鈴木浩平氏と、連絡が
 ました。住所はまちが、ありま、秋の古御便番を、
 によるし、その他の地域は10000となりました。この点か
 違いました。

個人情報のため削除 古代文字資料館
 東京信愛教会の件は、この手紙かど、ろには、直藤
 さんから貴死あて通知かあると思えます。
 魯國堯先生の件は、乱暴な話でした。儀礼まつける
 とう意味はあ、のですか、死蔵されることには、かもし、ま
 し、まだ、お手配かすんで、られば、削除して下さい。
 申しわけありませんか。
 個人情報のため削除 古代文字資料館
 岸 佐保子 (足立巻二四やち、古の舟橋教授と)
 に変更して、たけま、て、らるか。
 この先、住所が不確実で返却されるものかあったは、あ、私
 の方ではないか、か、あ、して、手も、と、と、けま、す、ので、ま、あ、て、私
 あて送って、た、けま、す、て、ら、るか。葵の鈴木寧教授の

竹越孝様

九月七日

慶谷壽信

敬具

住所は、「有政世略伝試稿」大学入学から卒業まで一の
 抜刷を送ったときにいたたいた礼状に書かれていたものです。
 いまどき、三浦郡葉山町一色でこのかどか。三浦市と
 とびついてもかもしんません。
 中国語字令名簿^{せい}にいがかげん住所を載せた者は、
 酌量する。余地はひかもしんませんが、^い中国語年鑑^{しん}に
 名簿の部分は、私の使った^い中国語年鑑^{しん}が古かったために
 返却されるものもあつたかもしんません。そのときには、大島
 一郎先生等の助けを借りて、なんとかとけまつ。
 最近、眼がおかしくなつて来まつた。その文字がぼけ
 ます。しばらくようすをみて、このままなら、眼科へ行かばい
 可まつ。皆えんは若いから、えんはとほめてしうね。
 それでは今回は「ミ」まで。印刷製本完了の吉報を
 待つまつ。

【2009. 9. 11 慶谷→竹越】

拝復 朝夕はしのぎやすくなつた。七八月のうちから
 考へると、自分の体調や精神も含めて、凋落の季節
 と感じた。感ず。
 貴信 九月十一日に拝受しました。来週の木曜日(十七
 日)にできあがれば予定通りですね。
 書籍送付先の名簿も、魯先生の件も含めて、すかり
 準備できたわけですね。これで一安心です。後から加えて
 いたたいた岸佐保子えんに酒井先生とのやりとりのとも
 含めて、手紙を書きます。Yama-ryu'sの被覆形、露
 お形の問題については意見が異なりました。また、たぐ
 りです。前に「前史」の原稿を「目を通した」た
 りました。
 ところで、古代文字資料館のホームページに、「序」「目次」
 初の一覧しと載せようのは、貴資料館としては当然のことで、
 異論はありせんが、「あとがき」は書物全体とも関連し、
 これだけ一人書きとすのは、どうかと思つたので、書物全体
 とみて、一人だけに限らせて下さい。以前、娘が「書物愛歩」
 の序文をケイタイで読んでました。部分だけとすよりは、
 いろいろが好ましく、これではなと思つた。「あとがき」は、
 ホームページに載せられて下さい。
 なお、八月下旬にした校正は、「書了」としてしまつたので
 校正のすんだものは、私の手もとにもどりました。いま
 からでは遅いかもしんませんが、それまでのほんとの無修正
 の三校刷がむだとなりません。本体ができてこれはいよいよな

2.

竹越孝様

九月十一日

慶谷壽信

敬具

ものですが、おどしては、これと持て心老の墓前に報告
もできず、欠けては何枚かをそろえたと思えます。この
半年余、無理なことはあり、気がたがいますが、
より急ぎ、一筆で送ります。
健康を祈ります。

【2009. 9. 15 竹越→慶谷】

拝啓

先生におかれましてはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

9月11日付の貴簡拝受いたしました。遠藤由里子先生からも東京信愛教会の件でお手紙をいただきましたので、送付リストがこれで確定いたしました。

校正刷の件では失礼しました。責了の三校とともに同封しますのでご査収下さい。また、ホームページ掲載の件も了解いたしました。

印刷製本業者からは遅くとも18日（金）までには納本するとの連絡を受けておりますが、私が17日（木）より海外出張（学会発表のため）ですので、その前に届かなかった場合には吉池さんに処理を頼みます。連休前にはお手元にお届けしますのでご安心下さい。

では、お体にはどうかご自愛下さい。

敬具

2009年9月15日

竹越 孝

慶谷 壽信先生

拝復 時下ますます清祥のこと存じます。

さて、貴信と校印刷と拝受しました。ありがとうございました。とにかく、私の手にもには「あとがき」の初校刷が一枚残っています。いじったので、これでも「あとがき」の全体のくまを知ることができました。P.378の有坂書簡で「雑誌論文を纏めてお救させて」と校印した結果なのか、雑誌論文としてお救いして、もう一回校印したところかと悔んでいます。

海外での学会発表をひかえて、何から何まで、うろろとお手数教をわづらわしましたこと、申しわけなく思っています。

一路平安！

九月十九日 敬具

1.

拝復 彼岸のころと存じました。

清祥にてお暮しのこと存じます。

さて、有坂秀世研究一冊と学問一五冊入りの宅急便、九月十九日に拝受しました。

これまでのご労苦に対し、心からお礼を申しあげます。

翌二十日には一冊をたずさえ、心光寺に報告に参りました。彼岸の入りでもあり、有坂家の人々と会うかも、北のへと思いましたが、私が一歩先んじます。通常、身内でもほめるに回々しいと思われはるかに、何日かの命日は別として、彼岸にお盆のお参りは遠慮しておきます。たが、二十日の日だけは特別でありました。

当日は、連休中であちこち人が多く、インフルエンザに感染するのを恐れました。たが、いまのところは、まだ免れていません。

皆様にはこれから発送のおしごとがあそ、お救いのところを申しわけありません。が、すうしくお願ひをします。

一段落しましたら、大学研究機関などよのようなところに送付されたかお教え下さい。

もし余りがあましたら、厚かましくお願ひですが、教部まわしていただけますでしょうか。

ます日本学士院とその事務官の鶴木亮一氏。

個人情報のため削除 古代文字資料館

したと思っています。

直接渡

第三に鈴木病院の鈴木哲夫第三代理長、もう七くは
そののではなからしと思ひ、名簿からはしりし。第三代理
長とのつきあひはありまゝでしたが、いづれ、鈴木病院には一冊
と考へています。直接多向して、養春所のこゝから説明しな
ければなりません。

第三に、今回の名簿作りの途中にて、たまたまお世話になつた
村崎恭子氏(言語学、アイヌ語)。いづれ梅田博之氏に
お願ひしたことが波及して、村崎氏とわづらわせしに成つたの
です。

今回が無理なら、第三刷をお願ひできたときに、解消でき
ればよいと思つています。また、たわごとをいそぐか、と軽く
お考え下さい。

まずはとり急ぎ、筆お礼まで。中村氏(住所かわりまへん)。
近代文字資料館内、でとまきまきか。竹越氏にもお
お礼状を書きます。
二、健勝を祈りつ。

九月二十一日

敬具

慶谷書信

吉池孝一様

【2009. 9. 24 慶谷→竹越】

拝復、秋のお彼岸も過ぎてしまひました。
一月の吉池書簡からもう九月近くになります。
中国からなだごともしり帰国されましたが、
は、十九日に宅急便を受け取り、翌二十日に心光寺(報告
に参りました。このことは、吉池氏への手紙に書きました。だが、
当日はシルバー・ウークとかで人も多く、疲れました。
二十日に妙と長女に本を渡しました。二女のほうは、
すしを食べてどうわけにもいかず、二十日に渡すしと約し
ました。当日朝寒、気がし、ひろシラには顔や手が赤
くなく、熱かあ、もようで、インフルエンザにやられたかと思ひ
ました。しかし、約束通りニセに渡すわけはなりません。
いろいろに動いてるうちに、熱の感じが消えました。
二、何じりかもしれませんが、二女は香代といひます。
香代に渡すまでは、インフルエンザに倒れたわけにはない。
それでは、りあえず危機をのりこえたのかもれません。
貴信、二冊に拝受しました。これから発送作業に
なりかかるとのこと、大へな労働で申、わけありません。
私か抜刷を発送するときは、添え手紙をいれ、あて名書
き、のりで封し、切手を貼るなど、いろいろと手間のかかる
もので、一日に三十通くらいしかできません。それと
三方通、四方通と異なるのですから、なみたいていのことでは
ありません。心からお礼を申しあげます。

ところで、「あとがき」のこと。 P. 397

「この手、私は将来誰かがその中に自分を含めてくれた。」
有坂秀世論と展開するための礎となることを企図していた。

のどう、原稿をみると、「私」のつぎに点がありませう。「私」が礎となつてあつて、「誰かが礎となる」では意に及しませう。初校の手紙に、残念ながら、私が見落としたのでしよう。

ついでに申しあげると、「編集後記」の

以下の各位に厚くお礼を申し上げたい。 のどう、

大修館書店(『言語』)……

内山書店(『中国語』)

とほめてます。

「有坂秀世博士の先生の地とその文録藏博士のこと」

「有坂秀世博士の論文について」

「読書語学」

は大修館『言語』
は内山書店『中国語』

のとおりで、私の二冊に

有坂秀世著『国語音韻史の研究(増補新装)』

は大修館『中国語』で、これが脱落して、

「初見一覽」のところで、これも『中国語』となって、

体例をみれば、どこでも大修館、内山書店の別を記すにき

ではありませぬか。

「やりとり」の書簡は五〇通を超えては、大抵は、

そうですが、「編集後記」の目録で限定すれば格別、

でなければ、私の手ものヤルで、

私の見落としがほかにもあるかも知れませぬし、

急には目がいへませぬ。できませぬから、

第二刷を承けていただき、ありがとうございます。

今回は、りあず、

健康を祈ります。

敬具

九月二十日

慶谷壽信

竹越 寿 様

1.

拝復 心光寺におかれて疲れましたが、このところ、少し
 気温が高いため、少し調子がよくありません。
 清祥にしてお祈りのことを祈ります。
 さて、宅便にて『有坂秀世研究』四冊、拝受しました。
 ありがとうございます。
 つぎからつぎへと増部の要求も多しと申しわけありませんが、
 お開きに入らせて、お礼を申しあげます。
 十月上旬に愛彦先生の命日がありますから、それが
 すでに、体調をみながらとります。学芸院や国会図書館
 分館には何へんかお祈りなすものに、どなたかあたか、思
 いません。
 今回は、学芸院にも、鈴木病院にも、私が直接おけ
 ますし、村崎恭子氏には手紙を添えますから、「謹呈
 著者」のような短冊は必要ないわけですが、その見本を
 みたしと思えます。そのような短冊が入ると、金額に手
 紙を書かなければなりませんので。
 学界の同業者で、人々には、これの本を返すよう
 封書がハガキと元まで平通ほどをまいたが、金額
 とうと、大へんなごんがります。
 ちやんとお願いしたとおりになすことと信じています
 ので、どうもさういふきではあつたのですが、老健心まで
 には。
 なお、中村氏の住所を教えていただきます。たので、
 お礼の手紙を書く予定です。

2.

右事は一筆、受領のお礼までに。
 健勝を祈ります。
 九月十六日
 敬具
 慶谷壽信
 吉池孝一様

拝復 時下、清祥の事有ります。

さて、貴信、本三十日に拝受しました。私の申あげたように、いろいろと不快をお感じのようです。

版下使用の可否について、大図書館に権利がなかり、から挙げていたというものは、それです。初巻は著者たる私からして、大図書館に中国語と内山書店に中国語の別は、記録としてぜひともほしいものです。この点は、いかがでしょうか。一筆、おうかがいいたします。健康を祈ります。

九月三十日

敬具